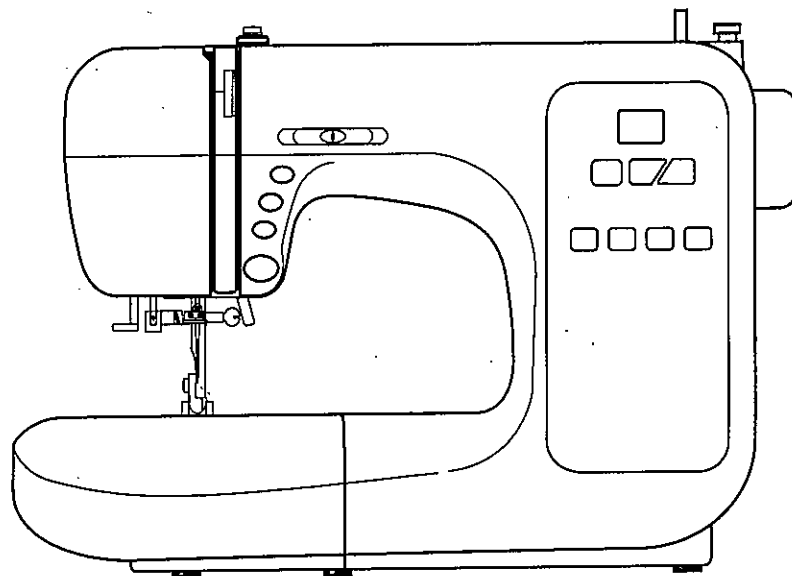


ご使用のしおり

《取扱説明書》



JANOME

安全上のご注意

- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 For use in japan only.

危害・損害の程度を表わす表示

 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
---	-------------------------------------	---	---

本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

警告 感電・火災の恐れがあります。	
 必ず実行	 以下のようなときは、電源スイッチを切り電源プラグを引き抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき 

注意 感電・火災・けがの原因となります。	
 分解禁止	  必ず実行
 接触禁止	  必ず実行
 禁止	 必ず電源プラグを持つて抜く
 禁止	 必ず電源プラグを持つて抜く
 禁止	 必ず電源プラグを持つて抜く
 必ず実行	 必ず電源プラグを持つて抜く

※仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

目 次

●各部のなまえ	2	●針板ガイドラインの利用	16
●標準付属品と収納場所	3	●厚手の布端のぬい始め	16
●補助テーブルの使い方	3	●直線状のぬい目いろいろ	17
●電源のつなぎ方	4	●ジグザグぬい	18
●速さの調節	4	★ぬい目の幅・長さをかえるとき	18
●操作ボタンの主なはたらき	5～6	●裁ち目かがり	19
●ドロップつまみの使い方	7	★ジグザグぬい裁ち目かがり	19
●押さえの取りかえ方	7	★トリコットぬい裁ち目かがり	19
●押さえホルダーの外し方、付け方	7	★裁ち目かがり	19
●押さえ上げ	8	●ボタンホール	20～21
●糸調子の合わせ方	8	★ぬい目の幅をかえるとき	21
★自動糸調子	8	★ぬい目の長さをかえるとき	21
★マニュアル糸調子	8	●芯入りボタンホール	22
●針の取りかえ方	9	●ボタン付け	23
●布に適した糸や針を選ぶ目安	9	●ファスナー付け	24～25
●下糸の準備をしましょう	10～11	●くけぬい（まつりぬい）	26
★ボピンを取り出します	10	★針落ちをかえるとき	26
★糸こまをセットします	10	●シェルタック	27
★ボピンに糸を巻きます	10	●アップリケ	27
★ボピンを内がまにセットします	11	●キルティング	28
●上糸の準備をしましょう	12～13	●ピンタック	28
★上糸のかけ方	12	●スーパー模様の形の整え方	29
★糸通しの使い方	13	●ランプの取りかえ方	29
★下糸を引きあげます	13	●ミシンの手入れ	30
●直線ぬい	14～15	★かまの分解	30
★ぬい始め	14	★かまと送り歯の掃除	30
★ぬい方向の変更	14	★かまの組み付け	30
★ぬい終わり	14	●こんな表示が出た場合	31
★ぬい目の長さをかえるとき	15	★ブザー音の種類	31
★針落ちをかえるとき	15	●ミシンの調子が悪いときの直し方	32

お取扱いについてのお願い

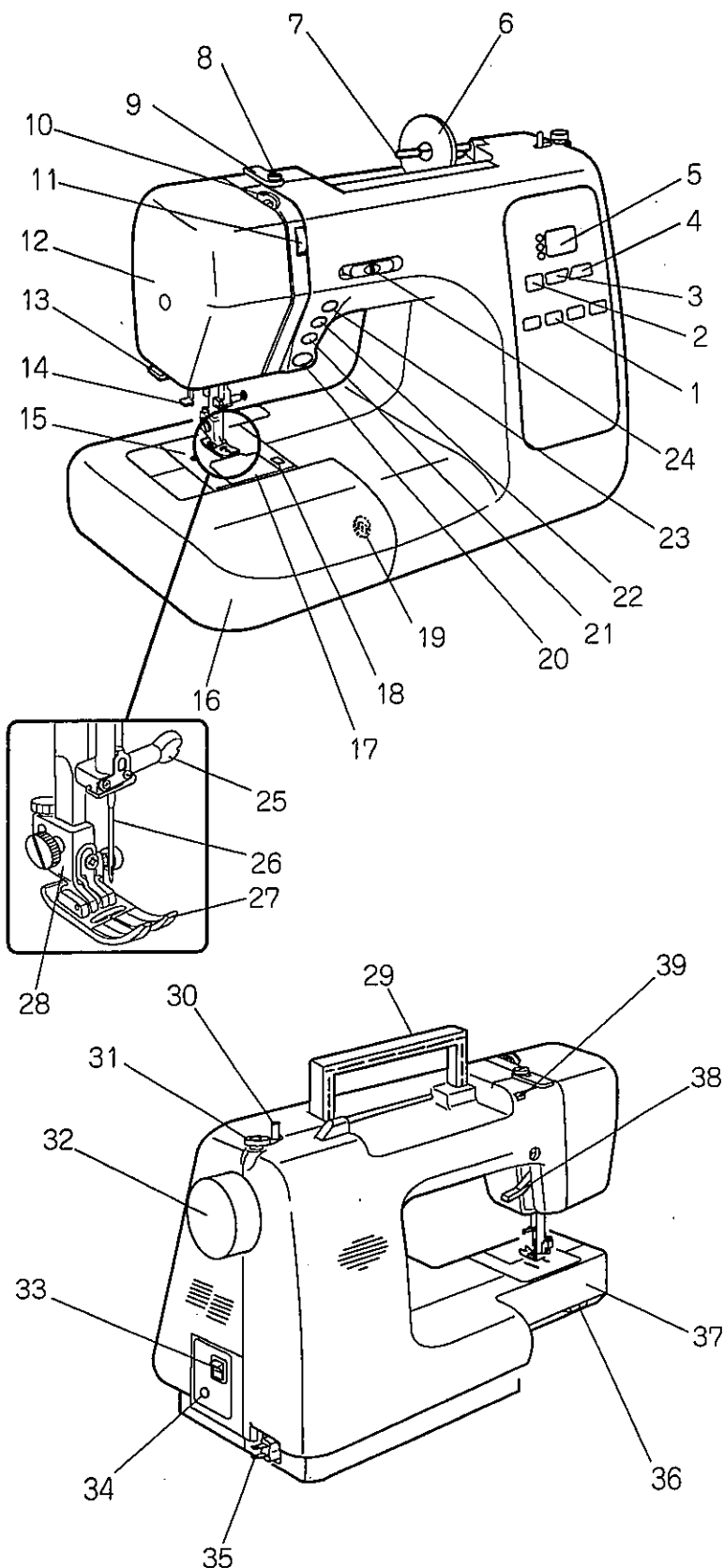
◇ご使用前に

- ①ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- ②シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

◇いつまでもご愛用いただくために

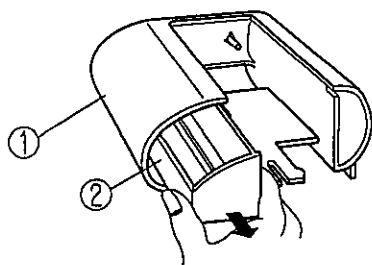
- ①長時間日光に当てないでください。
- ②湿気やほこりの多いところは避けてください。
- ③落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

●各部のなまえ



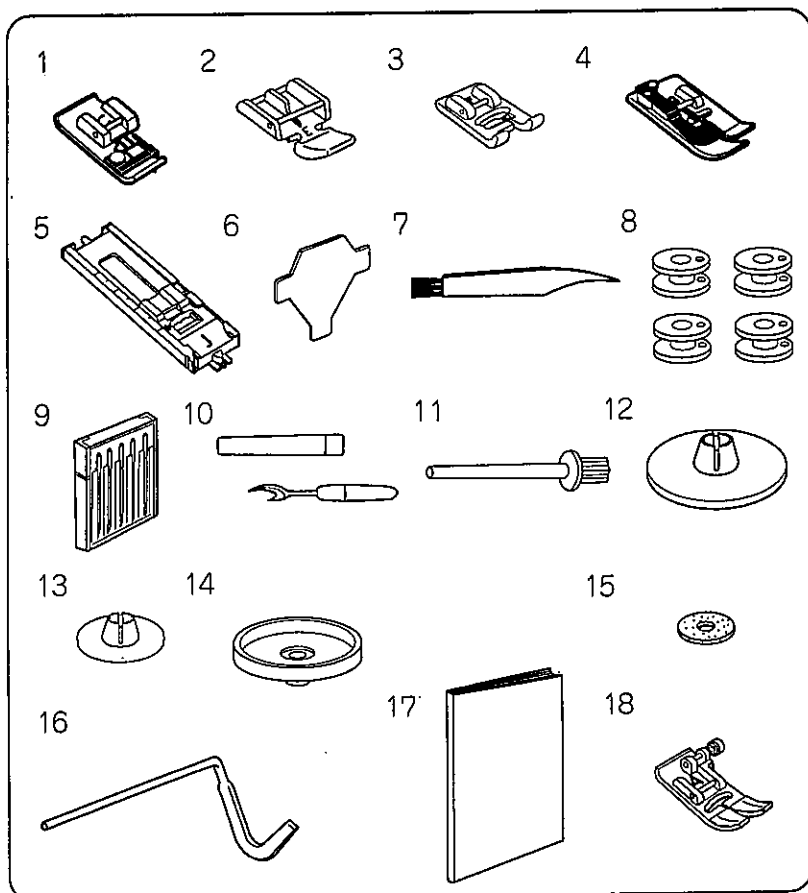
- 1 ダイレクト選択ボタン
- 2 表示切替ボタン
- 3 「－」ボタン
- 4 「＋」ボタン
- 5 表示窓
- 6 糸こま押さえ
- 7 糸立て棒
- 8 糸巻き糸案内
- 9 糸案内体
- 10 天びん
- 11 糸調子ダイヤル
- 12 面板
- 13 糸切り
- 14 糸通し
- 15 針板
- 16 補助テーブル（小物入れ）
- 17 角板
- 18 角板開放ボタン
- 19 送り調節ねじ
- 20 スタート・ストップボタン
- 21 返しぬいボタン
- 22 止めぬいボタン
- 23 上下停針ボタン
- 24 スピードコントロールつまみ
- 25 針止めねじ
- 26 針
- 27 押さえ
- 28 押さえホルダー
- 29 手さげハンドル
- 30 糸巻き軸
- 31 ボビン押さえ
- 32 はずみ車
- 33 電源スイッチ
- 34 プラグ受け
- 35 電源プラグ
- 36 ドロップつまみ
- 37 フリーアーム
- 38 押さえ上げ
- 39 補助糸立て棒取り付け穴

●標準付属品と収納場所



補助テーブルを外し、押さえ等の小物を収納します。

- ①補助テーブル
- ②付属ケース

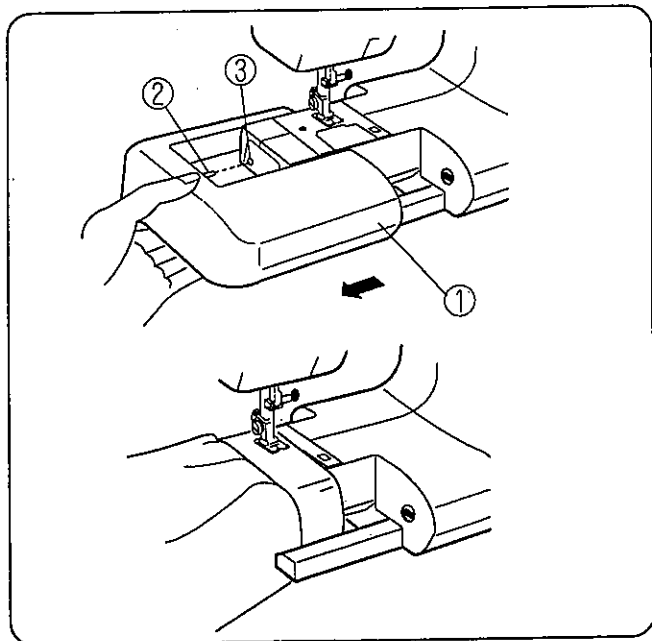


- 1 C:裁ち目かがり押さえ
- 2 E:ファスナー押さえ
- 3 F:サテン押さえ
- 4 G:くけぬい押さえ
- 5 J:ボタンホール押さえ
- 6 ねじまわし
- 7 ミシンブラシ
- 8 ボビン
- 9 針
- 10 目ほどき
- 11 補助糸立て棒
- 12 糸こま押さえ (大)
- 13 糸こま押さえ (小)
- 14 糸こま受け台
- 15 フェルト
- 16 キルター
- 17 取扱説明書
- 18 A:基本押さえ

※糸こま押さえ (大) はミシンの糸立て棒に付いています。

※A:基本押さえはミシン本体に付いています。

●補助テーブルの使い方



【補助テーブルの外し方】

補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

- ①補助テーブル

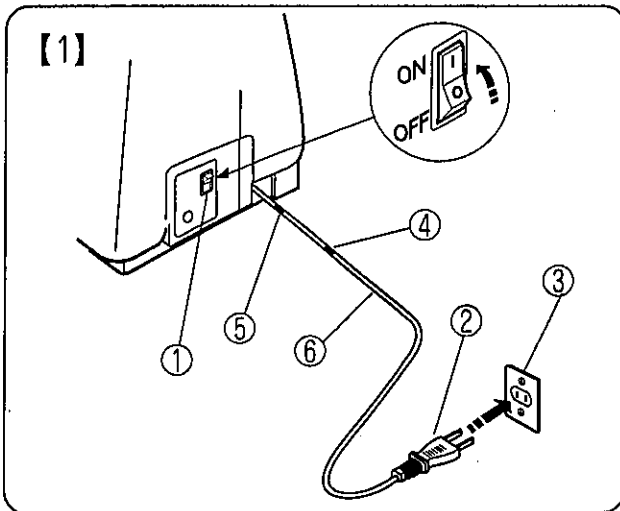
【フリーアームの使い方】

そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。

※補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームにそわせ、ピンを穴に入れ、取り付けます。

- ②ピン
- ③穴

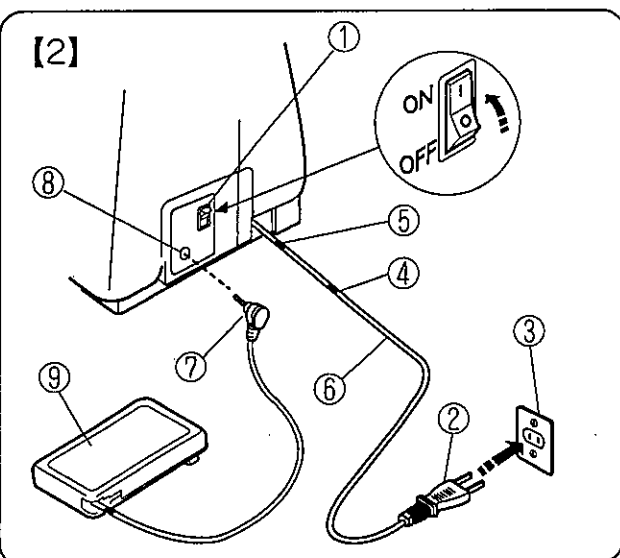
●電源のつなぎ方



- ・電源は一般家庭用（100V 50/60Hz）です。
- ・ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

【1】 スタート・ストップボタン使用のとき

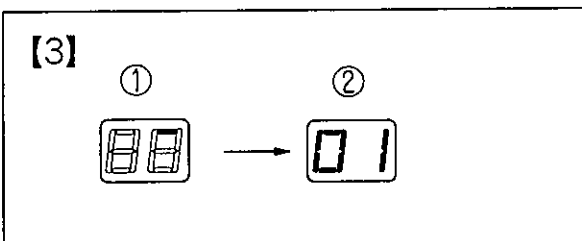
- ① 電源スイッチを「OFF」（切）にします。
 - ② 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
 - ③ 電源スイッチを「ON」（入）にします。
 - ①電源スイッチ ②電源プラグ ③コンセント
 - ④黄マーク ⑤赤マーク ⑥電源コード
- ※電源コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤マーク以上は引き出さないでください。黄マークが出たら30cmぐらいで赤マークになります。



【2】 フットコントローラー使用のとき

（フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。）

- ① 電源スイッチを「OFF」（切）にします。
- ② フットコントローラープラグをプラグ受けに差し込みます。
- ③ 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ④ 電源スイッチを「ON」（入）にします。
 - ①電源スイッチ ②電源プラグ ③コンセント
 - ④黄マーク ⑤赤マーク ⑥電源コード
 - ⑦フットコントローラープラグ ⑧プラグ受け
 - ⑨フットコントローラー

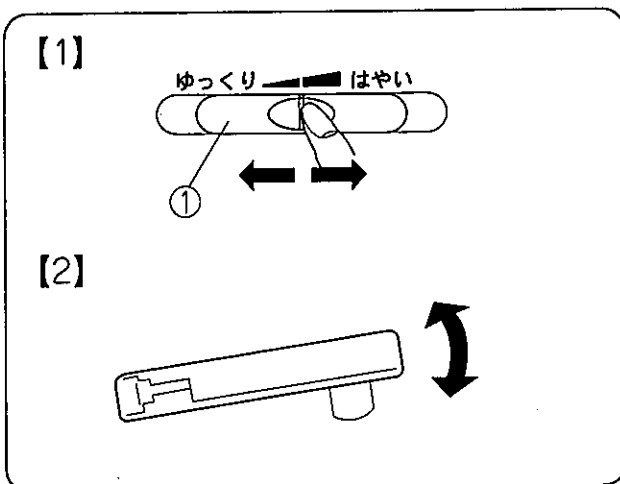


【3】 電源投入時 1秒間ミシンの設定を行い、直線模様# 01を表示します。

※初期表示が終わったら、ミシンの準備が完了です。

- ①表示窓
- ②初期表示

●速さの調節



【1】 スピードコントロールつまみ

スピードコントロールつまみを左右に動かして、最高速度の範囲を調節します。

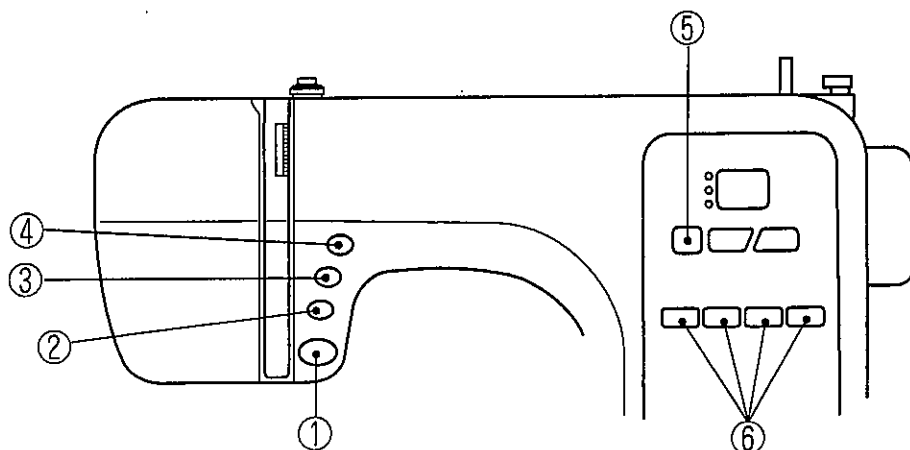
- ①スピードコントロールつまみ

【2】 フットコントローラー

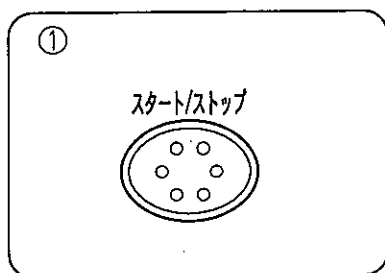
（フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。）

フットコントローラーは、深くふみ込むほど速くなります。※フットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。また、フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。けがや故障の原因となります。

●操作ボタンの主なはたらき



スタート・ストップボタン

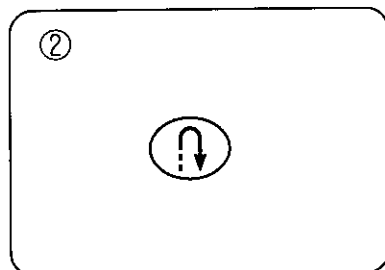


ボタンを押すと、ゆっくり動きだしスピードコントロールつまみでセットした速さで動き始めます。

※ボタンを押し続けると、ゆっくり回転し続けます。

※スタート・ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーの接続は、外してください。

返しぬいボタン



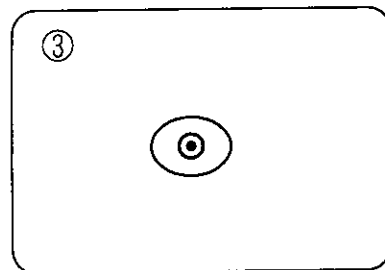
【運転中の返しぬい】

模様    は、ボタンを押している間は返しぬいをします。その他の模様⁰¹₀₆⁰⁷のときには、すぐに止めぬいをして自動的に止まります。

【停止中の返しぬい】（スタート・ストップボタン使用時のみ）

模様    は、ミシンが動いていない状態で返しぬいボタンを押すと、押している間は返しぬいをし、指をはなすと止まります。

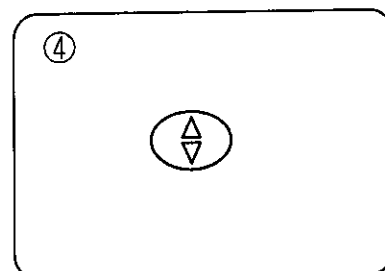
止めぬいボタン



模様    で、ボタンを押すと数針止めぬいをして自動的に止まります。その他の模様ぬい⁰¹₀₆⁰⁷のとき、模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。

※ぬう前に止めぬいボタンを押しておくと、模様を一つぬい終わって自動的に止まります。

上下停針ボタン



ミシンが止まっているとき、ボタンを押すと針が上位置から下位置に切りかわります。もう一度押すと、上位置に切りかわります。

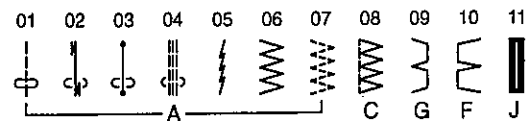
※下位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき針は下位置で止まります。

表示切替ボタン

ボタンを押す毎に、「模様」、「ぬい目の幅」、「ぬい目の長さ」の順に切りかわります。

(1)「模様」の表示「+」、「-」ボタンを押し模様番号を選びます。

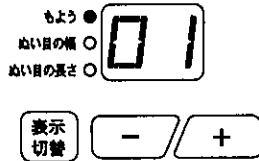
ぬい中は選べません。



⑤

表示
切替

(1)



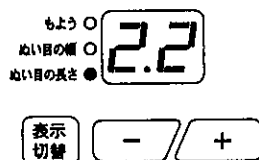
(2)



(2)「ぬい目の幅」の表示「+」、「-」ボタンを押すとぬい目の幅が変わります。

ぬい中でもかわります。

(3)



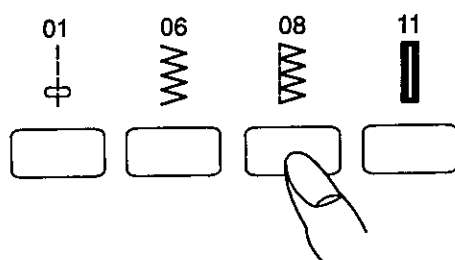
(3)「ぬい目の長さ」の表示「+」、「-」ボタンを押すとぬい目の長さがかわります。

ぬい中でもかわります。

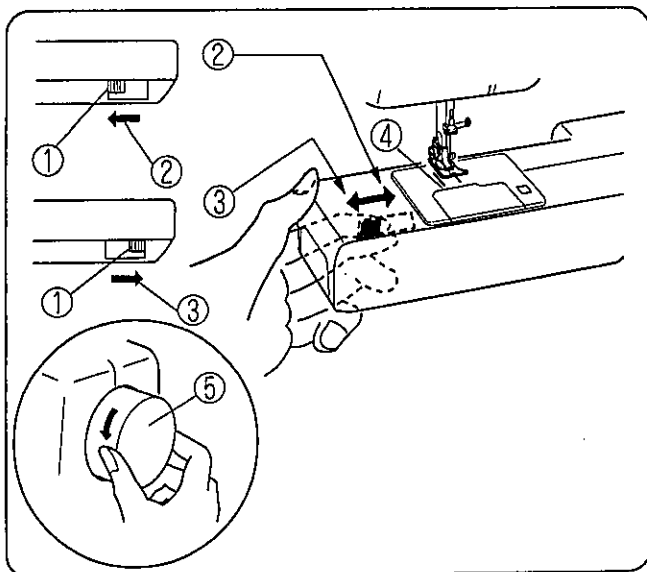
ダイレクト選択ボタン

ボタンを押すと直接模様が選べます。
表示窓に選んだ模様が表示されます。

⑥



●ドロップつまみの使い方

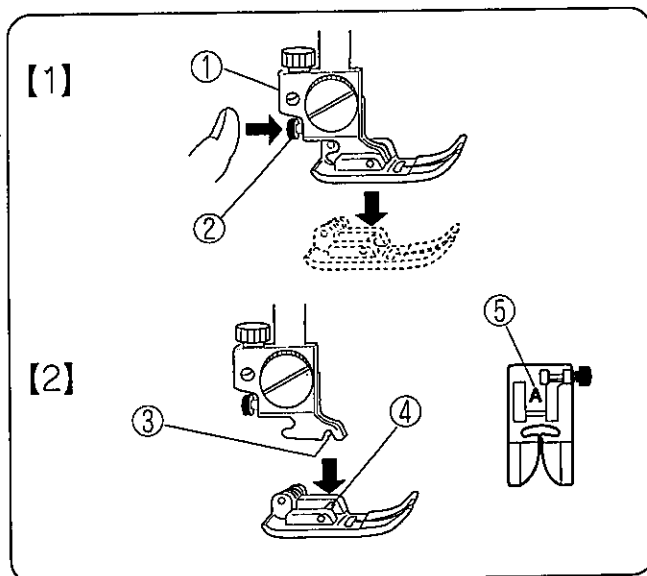


ボタンつけなどのときは、送り歯をさげて行います。
ドロップつまみをさげる位置にセットし、手ではずみ車をまわして送り歯がさがることを確認します。

※終わったら、ドロップつまみをあげる位置にもどし、手ではずみ車をまわして、送り歯があがることを確認します。

- ①ドロップつまみ
- ②送り歯をさげる位置
- ③送り歯をあげる位置
- ④送り歯
- ⑤はずみ車

●押さえの取りかえ方



⚠ 電源スイッチを切ってから行ってください。
押さえは、模様にあったものを使用ください。
押さえが合っていないと、針が押さえに当たり針折れして、危険です。

【1】 外し方

押さえ上げをあげて、押さえホルダーの赤色ボタンを押して、押さえを外します。

- ①押さえホルダー
- ②赤色ボタン

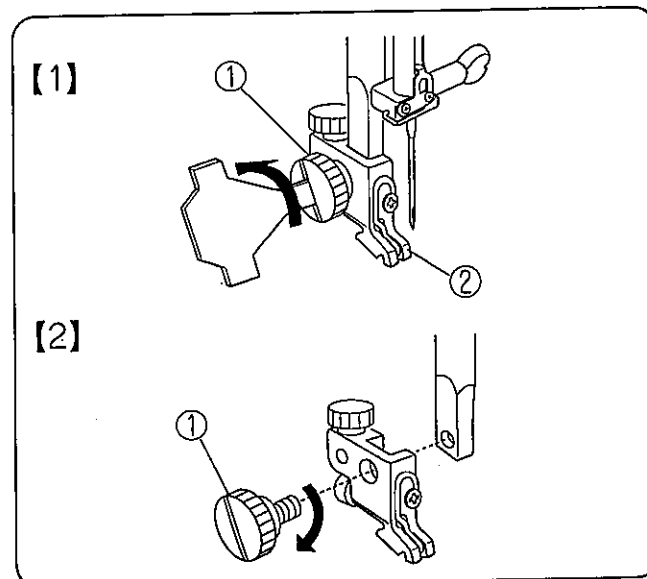
【2】 付け方

押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

※押さえには、記号が付いていますので模様にあった物を使用してください。

- ③押さえホルダーのみぞ
- ④押さえのピン
- ⑤押さえ記号

●押さえホルダーの外し方、付け方



⚠ 電源スイッチを切ってから行ってください。

【1】 外し方

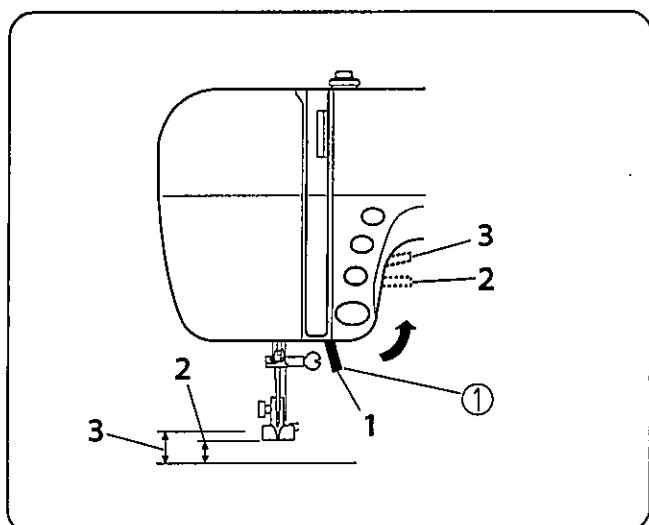
押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

- ①押さえホルダー止めねじ
- ②押さえホルダー

【2】 付け方

押さえホルダー止めねじを右にまわして、付けます。

●押さえ上げ

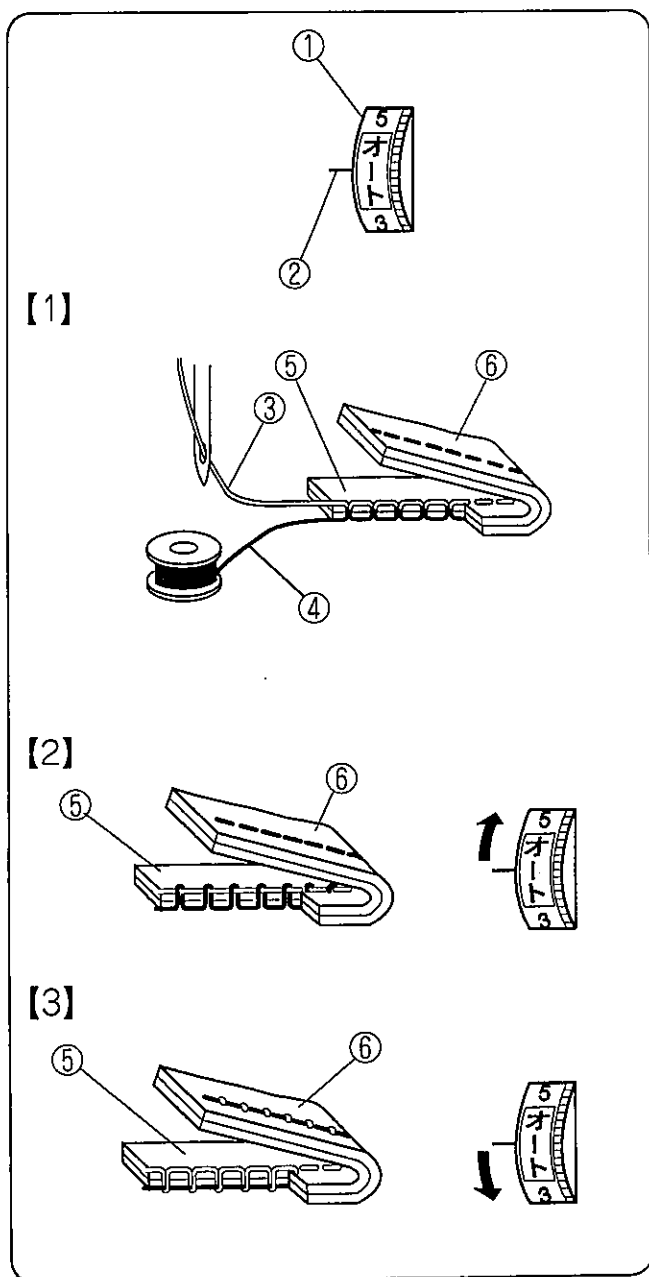


押さえ上げで、押さえのあげ下げをします。
押さえ上げは普通にあげた位置よりさらに高くあげることができます。
補助リフトとしてお使いください。

- 1 さげた位置 ぬいときには、さげておきます。
- 2 普通にあげた位置 .. 布のとり出しや、糸通し、押さえの交換のときにあげます。
- 3 さらにあげた位置 .. 補助リフトで、厚物の布が入れやすくなります。

①押さえ上げ

●糸調子の合わせ方



★自動糸調子

このミシンは、糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、バランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。

【1】 バランスのとれた糸調子

直線ぬいときは、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。
ジグザグぬいときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

- ①糸調子ダイヤル
- ②指示線
- ③上糸
- ④下糸
- ⑤布の表
- ⑥布の裏

★マニュアル糸調子

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルをまわして上糸と下糸の交わる位置を調節します。

【2】 上糸が強すぎる時

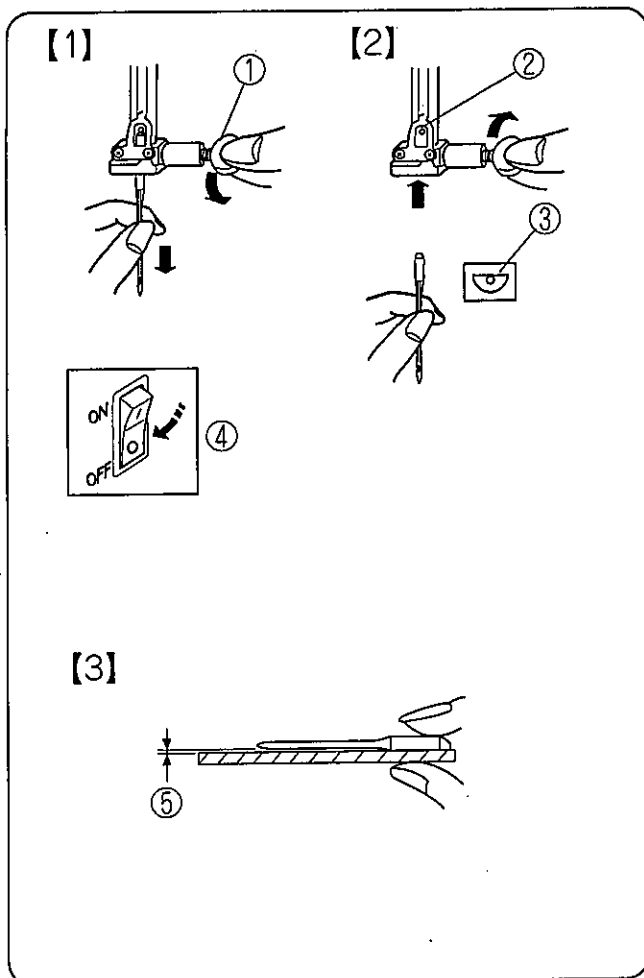
下糸が布の表に出ます。・・・糸調子ダイヤルを小さな目盛に合わせます。

【3】 上糸が弱すぎる時

上糸が布の裏に出ます。・・・糸調子ダイヤルを大きな目盛に合わせます。

●針の取りかえ方

⚠ 電源スイッチを切ってから行ってください。



※はずみ車を手でまわして針をあげ、押さえ上げをさげます。

【1】外し方

針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。

【2】付け方

針の平らな面を向こう側に向けて、針がピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

- ①針止めねじ
- ②ピン
- ③針の平らな面
- ④電源スイッチ

※正しく針が付けられていないと、糸通しできないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

【3】針の調べ方

針の平らな面を平らな物(針板など)に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

- ⑤すきま

※曲がった針を使うと、針が折れ危険です。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	ポリエステル 90番	9番～11番
普通の布	普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール	絹糸 50番 綿糸 60番 ポリエステル、ナイロン 50～90番	11番～14番
		綿糸 50番	14番
厚い布	デニム ジャージー コート地 キルティング	絹糸 50番 綿糸 40番～50番 ポリエステル 40番～50番	14番～16番
		ポリエステル 30番 綿糸 30番	16番

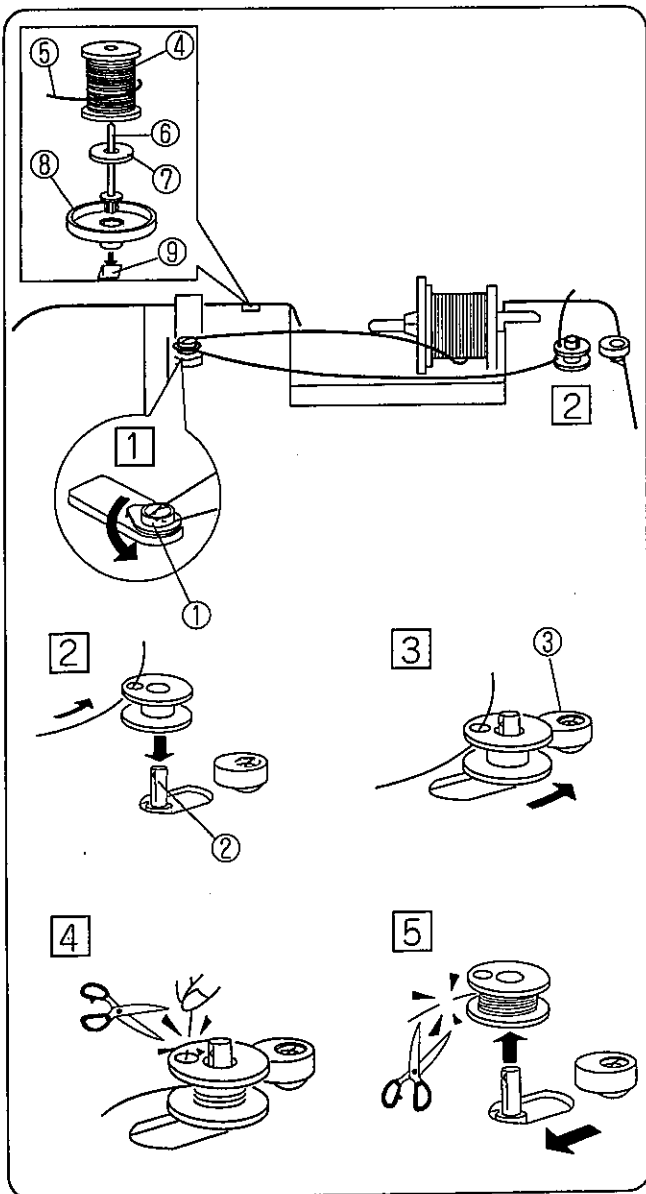
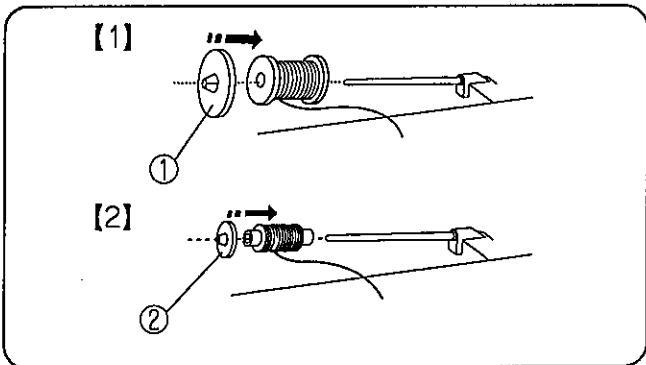
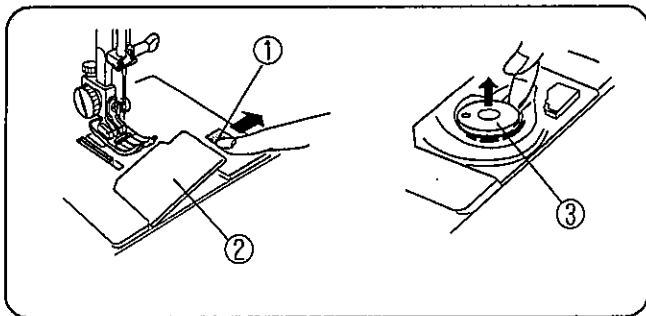
※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

※伸縮性のある布(ジャージー、トリコット)や目とびしやすい布地などには、ジャンメブルー針を使用すると防止効果があります。

(市販SP針も同様の効果があります。)

●下糸の準備をしましょう



★ボビンを取り出します

角板開放ボタンを右へずらして角板を外しボビンを取り出します。

- ①角板開放ボタン
- ②角板
- ③ボビン

※ボビンは、必ず、専用ボビンをご使用ください。
他の製品を使うと故障の原因になります。

★糸こまをセットします

糸の端が糸こまの下から手前が出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

【1】普通の糸こまのとき

- ①糸こま押え (大)

【2】小さい糸こまのとき

- ②糸こま押え (小)

※ 小さい糸こまのときには、必ず、糸こま押え (小) を使ってください。

★ボビンに糸を巻きます

1 糸巻き糸案内に糸をかけます。

- ①糸巻き糸案内

2 ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

- ②糸巻き軸

3 ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。

表示窓に **SP** と表示され、糸巻き位置にセットされたことを表示します。

- ③ボビン押さえ

4 糸の端をつまんだままスタートして、ボビンに糸が2〜3重くらい巻きついたらミシンを止めて、糸を切ります。

5 ふたたびスタートして、巻き終わるとボビンの回転が止まります。

ミシンを止め糸巻き軸を元にもどし、糸巻き軸よりボビンを外して糸を切ります。

※糸巻き軸は、必ずミシンを止めてからもどしてください。

※補助糸立て棒を利用するときは、下側に糸こま受け台を差し込んだ状態で、取り付け穴にセットします。

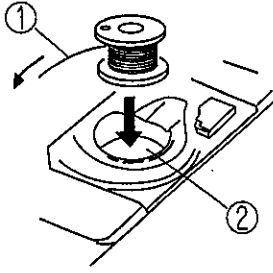
- ④糸こま ⑤糸の端 ⑥補助糸立て棒
- ⑦フェルト ⑧糸こま受け台 ⑨取り付け穴

※補助糸立て棒を利用するときは、糸の端が手前側から出るようにします。

※糸を巻くときは、スピードコントロールつまみを「はやい」にセットしてご使用ください。

★ボビンを内がまにセットします

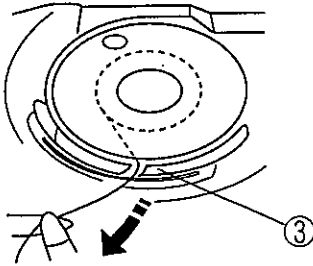
1



- 1 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

①糸の端
②内がま

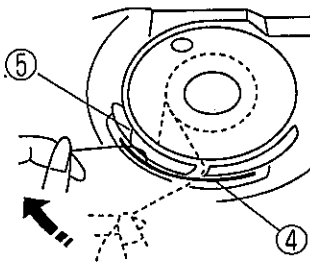
2



- 2 糸の端を引きながら、手前のみぞにかけます。

③手前のみぞ

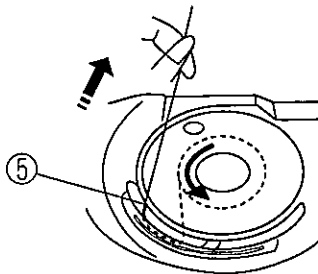
3



- 3 糸を引きながら左へ移動させ、みぞの外側とばねの間を通して、左側のみぞに出します。

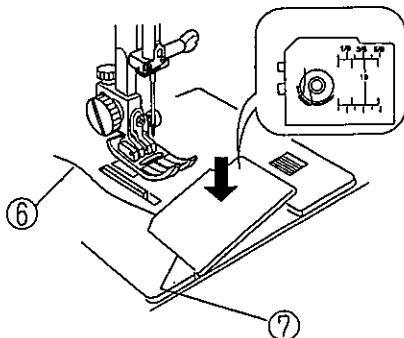
④ばね
⑤左側のみぞ

4



- 4 糸を左側のみぞにかけるように向こう側に出します。
※糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。
時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。

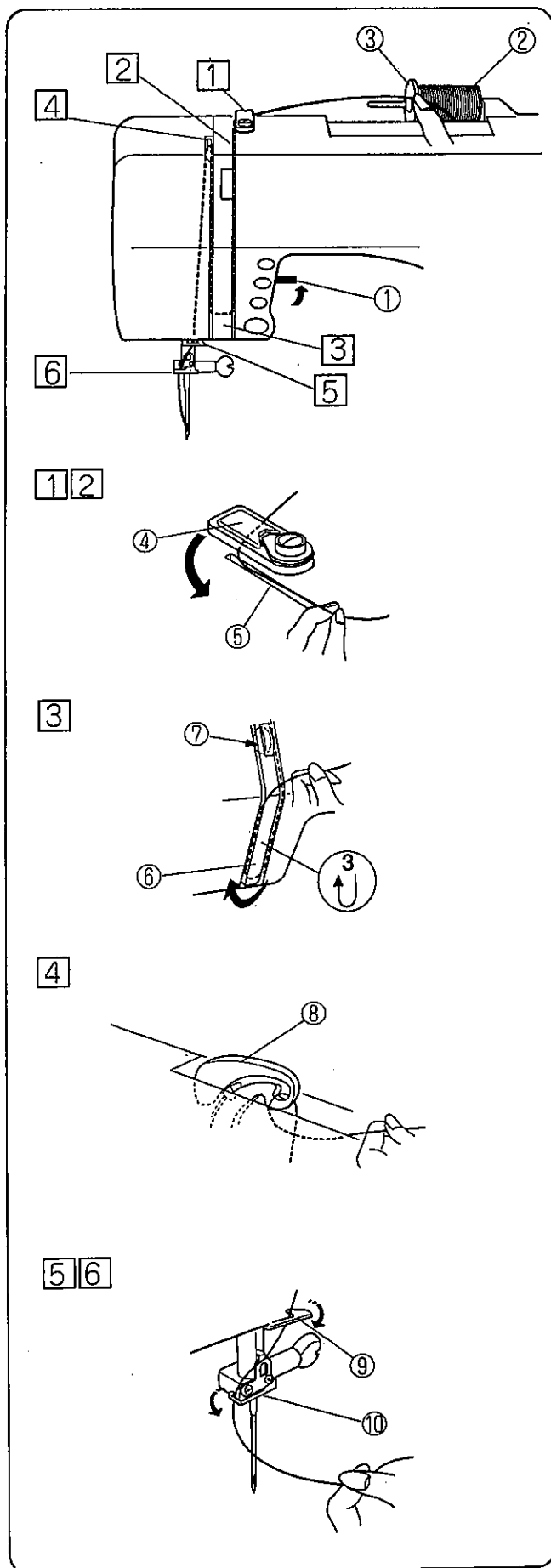
5



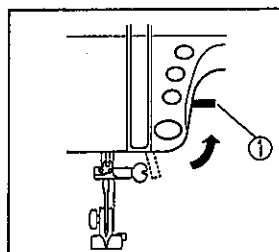
- 5 下糸は10 cmくらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

⑥下糸
⑦角板の左側を合わせる

●上糸の準備をしましょう



【準備】



押さえ上げをあげます。
押さえ上げをあげないと
上糸が正しくかけられま
せん。

①押さえ上げ

★上糸のかけ方

※糸こま外れ防止のため、必ず、糸こま押さえを使用
してください。

- ① 糸こまから糸を引き出し、糸こまを軽く押えながら
糸案内体の下に巻きつけるようにしてかけます。

②糸こま
③糸こま押さえ
④糸案内体

- ② みぞにそって手前に糸を引き出します。

⑤みぞ

- ③ 糸こまから出ている糸を押さえて、糸案内板の下を
まわし、左上に引きあげます。

⑥糸案内板

※糸調子皿から外れていないか確認してください。

⑦糸調子皿

- ④ 上下停針ボタンを2度押し、天びんをいちばん上
にあげます。糸を天びんに右から後ろへまわして手前
に出し、まっすぐ下におろします。

※糸が天びんの先端まで入っていることを確認しま
す。

⑧天びん

- ⑤ アーム糸案内に右からかけます。

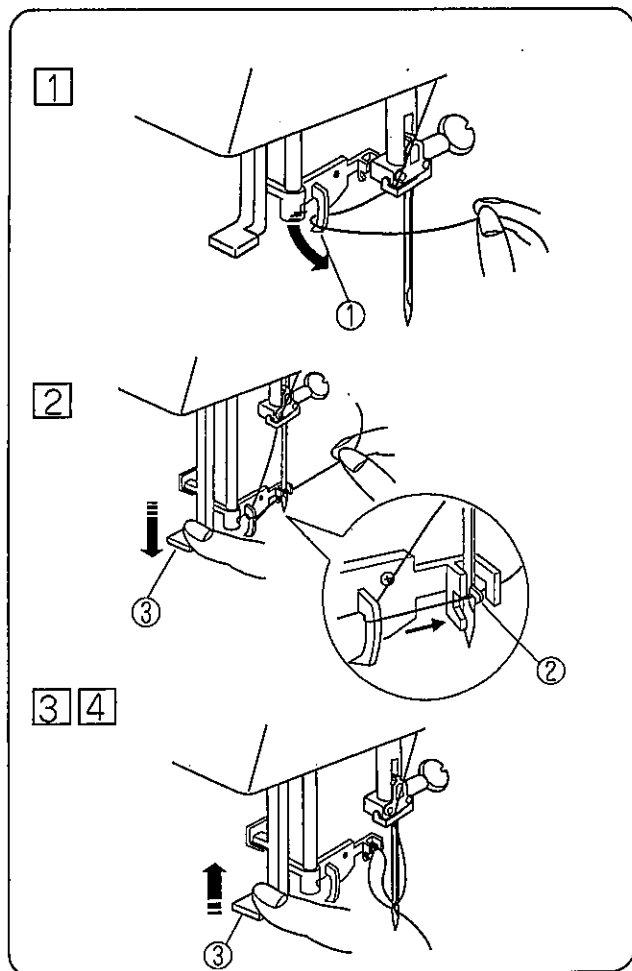
⑨アーム糸案内

- ⑥ 針棒糸かけに左からかけます。

⑩針棒糸かけ

※針には糸通しを使って糸を通します。

糸通しの使い方は、13ページをごらんください。



★糸通しの使い方

※ 針は、11番～16番、糸は、一般ミシン糸50番～90番が使用できます。

※ 押さえをさげます。

- 1 ガイドの向こう側から手前にかけて、糸の端を軽く持ちます。

①ガイド

- 2 糸通しつまみを下に止まるまで引き下げます。糸を針穴に入っているフックにかけます。

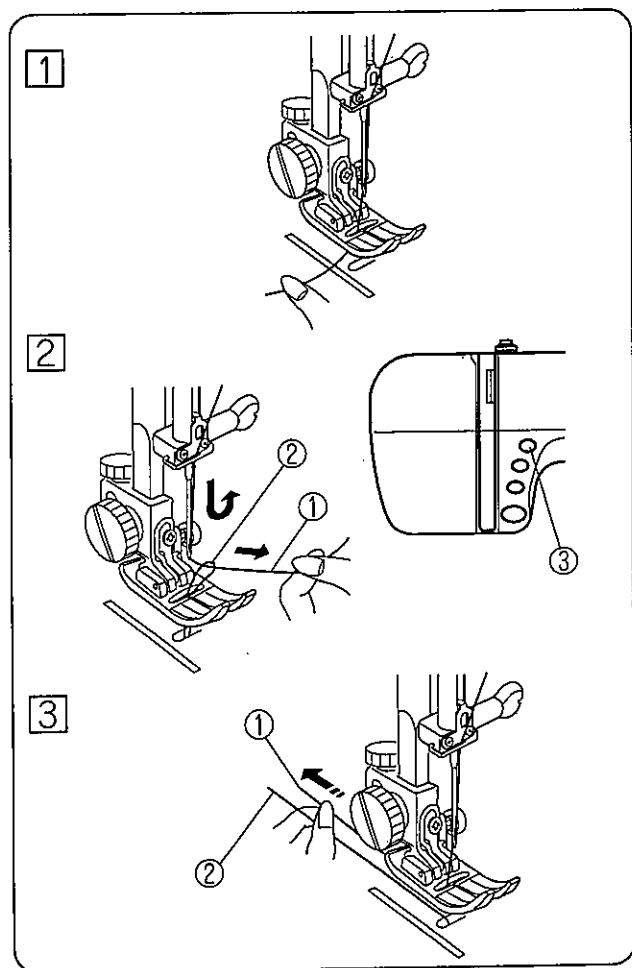
②フック

③糸通しつまみ

- 3 糸の端を軽く持ち、糸通しつまみを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

※ 糸の輪が出ない場合、針の付け方が良くないか、または、針が曲っています。針の取りかえ方のページにしたがって確認してください。

- 4 糸の輪を糸通しから外し、針穴から糸の端を引き出します。



★下糸を引きあげます

- 1 押さえ上げをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

- 2 上下停針ボタンを2度押し、針をあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

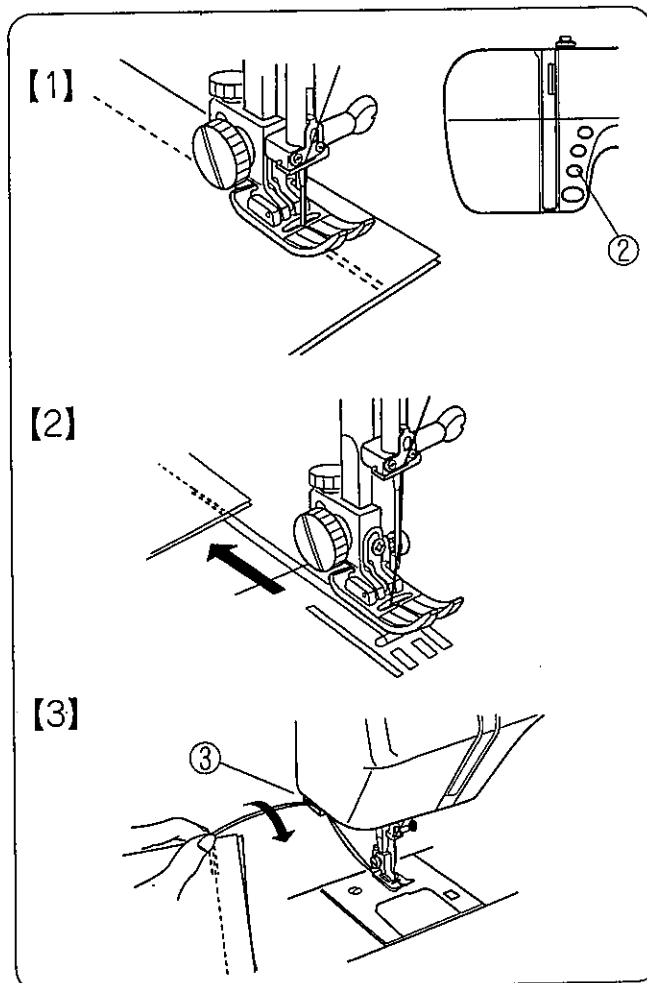
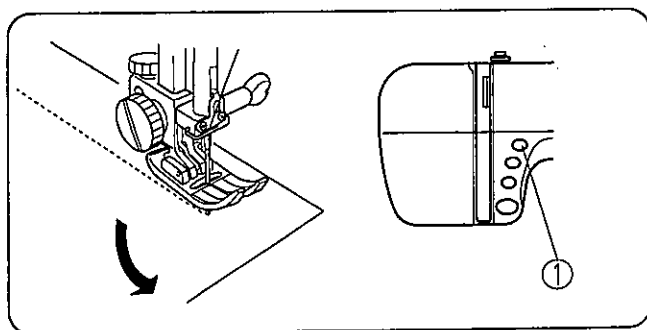
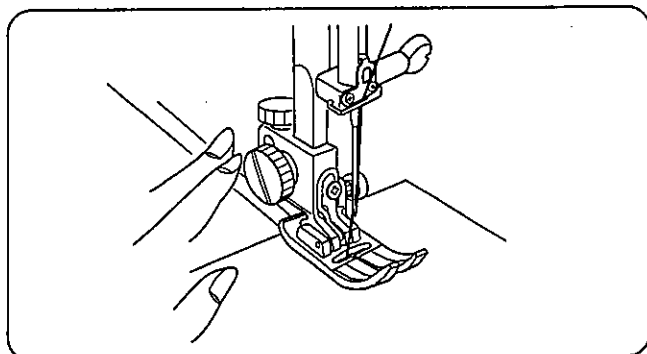
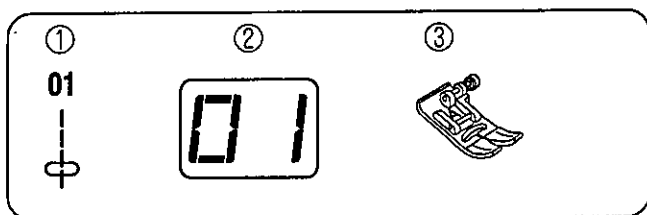
①上糸

②下糸

③上下停針ボタン

- 3 上糸と下糸を押さえの下にして、約10cmほど後ろへそろえて引き出します。

●直線ぬい



《ミシンのセット》

- ①模様
- ②表示窓
- ③押さえA: 基本押さえ

★ぬい始め

糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。

押さえ上げをさげて、ぬい始めます。

※ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいボタンを押しながら返しぬいをする方法と、自動返しぬいのついた模様# 0 2  を使う方法があります。

★ぬい方向の変更

ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を布に刺し、押さえ上げをあげます。

針を布に刺したまま、ぬい方向をかえます。

- ①上下停針ボタン

★ぬい終わり

【1】 返しぬい

返しぬいボタンを押しながら数針返しぬいをします。

※模様# 0 2  のときには、返しぬいボタンを1度押すだけで、自動的に返しぬいをします。

- ②返しぬいボタン

【2】 布の引き出し方

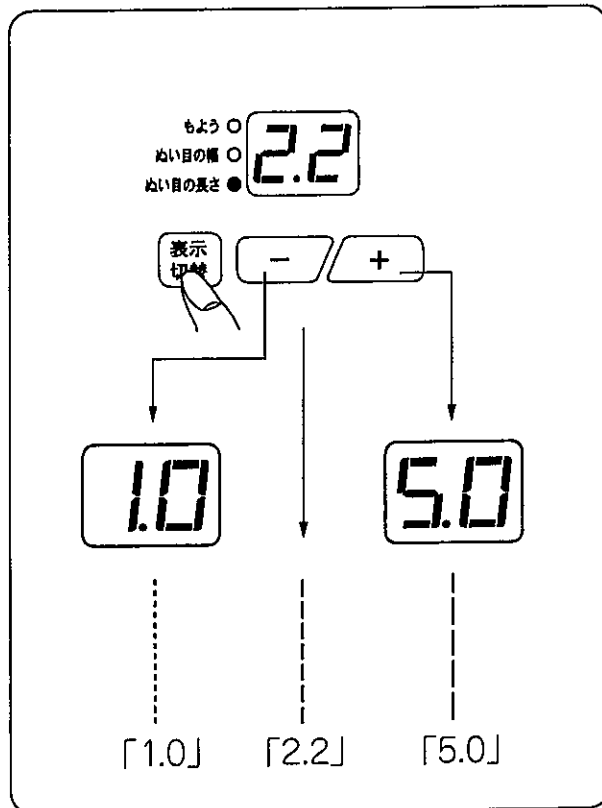
押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

【3】 糸切り

布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

- ③糸切り

★ぬい目の長さをかえるとき



「表示切替」ボタンを押して、「ぬい目の長さ」を選択します。

自動セットの数値2.2が表示されます。

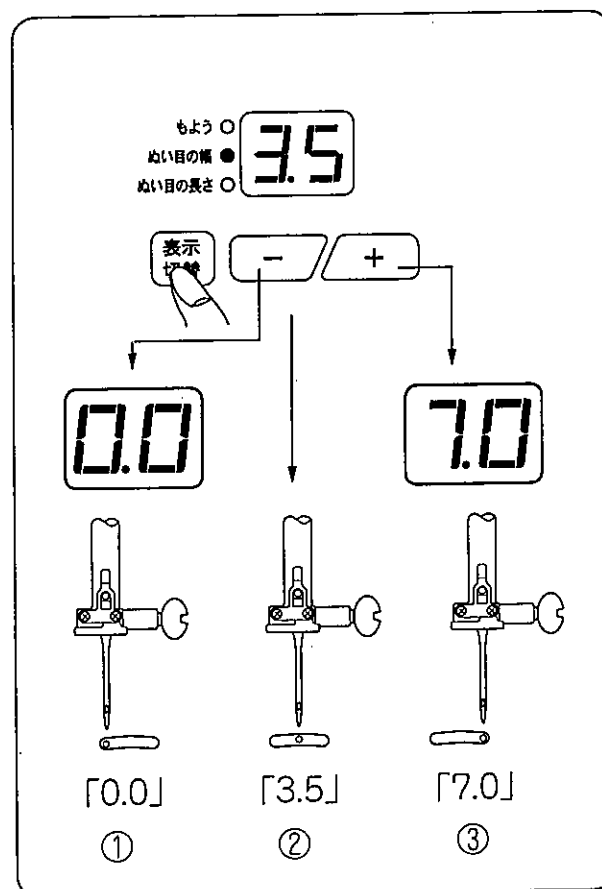
※0.0～5.0の範囲でかえることができます。

長さの単位は、mmです。

「-」ボタンを押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が短くなります。

「+」ボタンを押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目が長くなります。

※返しぬいのぬい目の長さは、2.5以上にはなりません。



★針落ちをかえるとき

※直線状のぬい目、模様 は、針落ち位置をかえることができます。

「表示切替」ボタンを押して、「ぬい目の幅」を選択します。

自動セットの数値3.5が表示されます。

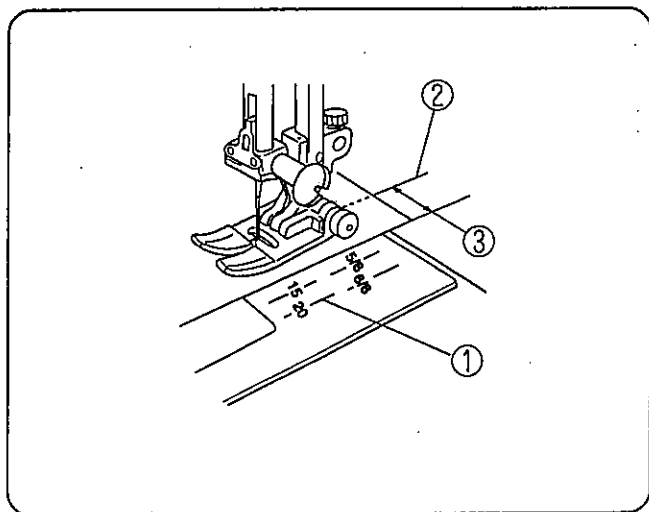
「+」、「-」ボタンで針落ち位置をかえます。

①針落ち左

②針落ち中

③針落ち右

●針板ガイドラインの利用



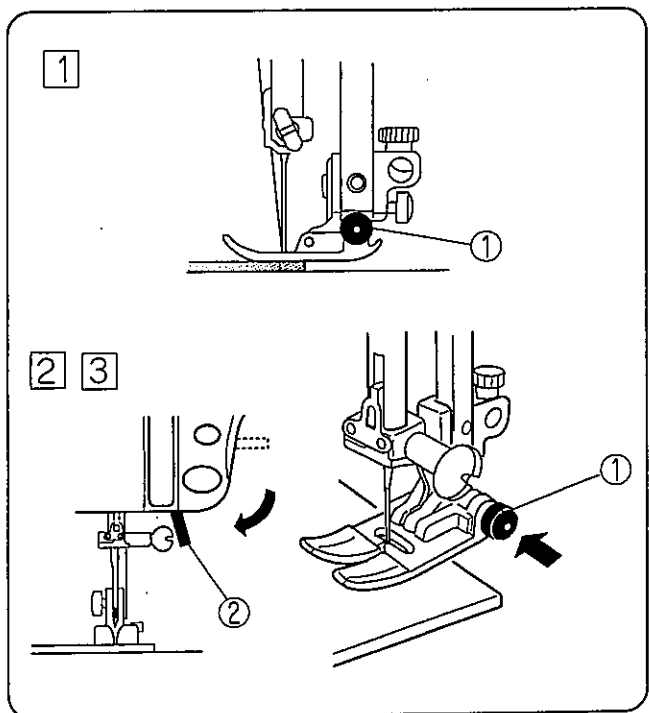
布端を針板ガイドラインに合わせてぬいます。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

※数字は、針落ち中央から針板ガイドラインまでの間かくです。

- ①針板ガイドライン
- ②針落ち中央
- ③間かく

●厚手の布端のぬい始め

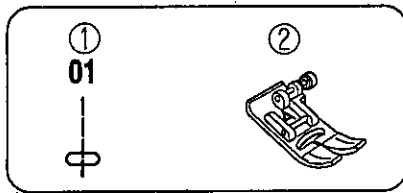


- ①ぬい始めの位置に針をさし、基本押えの黒ボタンを押しこみます。
- ②黒ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。
- ③黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。

- ①黒ボタン
- ②押さえ上げ

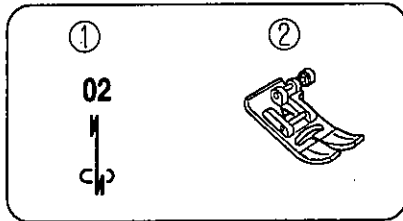
●直線状のぬい目いろいろ

【使い方】



①模 様地ぬい ②押さえA: 基本押さえ

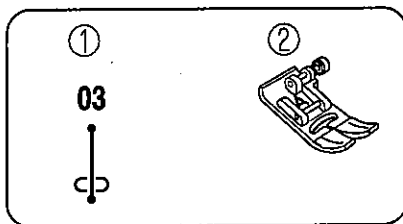
地ぬいや、ファスナーつけなどに使います。



①模 様自動返しぬい ②押さえA: 基本押さえ

しっかりしたほつれ止めを自動的に行うときに使います。

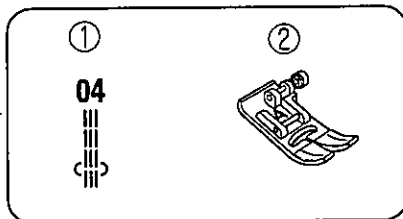
(ぬい終わりにきたら、返しぬいボタンを1度押します。
数針返しぬいをしてから自動的に止まります。)



①模 様自動止めぬい ②押さえA: 基本押さえ

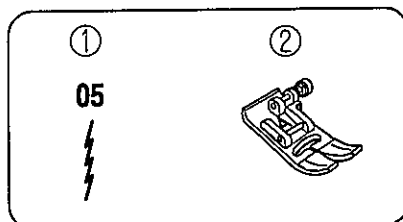
目立たない止めぬいを自動的に行うときに使います。

(ぬい終わりにきたら、返しぬいボタンを1度押します。
数針止めぬいをして自動的に止まります。)



①模 様三重ぬい ②押さえA: 基本押さえ

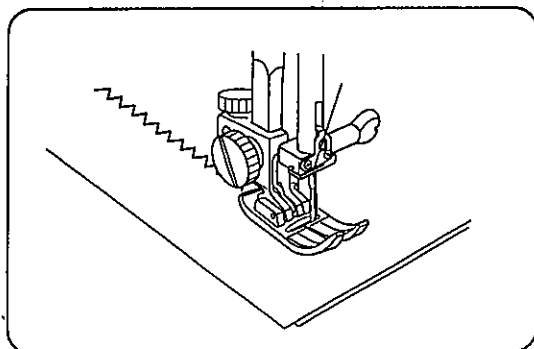
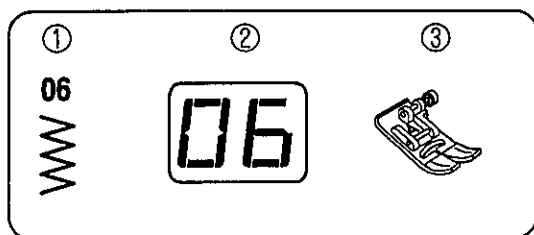
伸縮性のある強いぬい目なので、補強ぬいに便利です。



①模 様伸縮ぬい ②押さえA: 基本押さえ

布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。
また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。

●ジグザグぬい



《ミシンのセット》

①模様

②表示窓

③押さえ A : 基本押さえ

伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には芯地を貼るとききれいにぬえます。

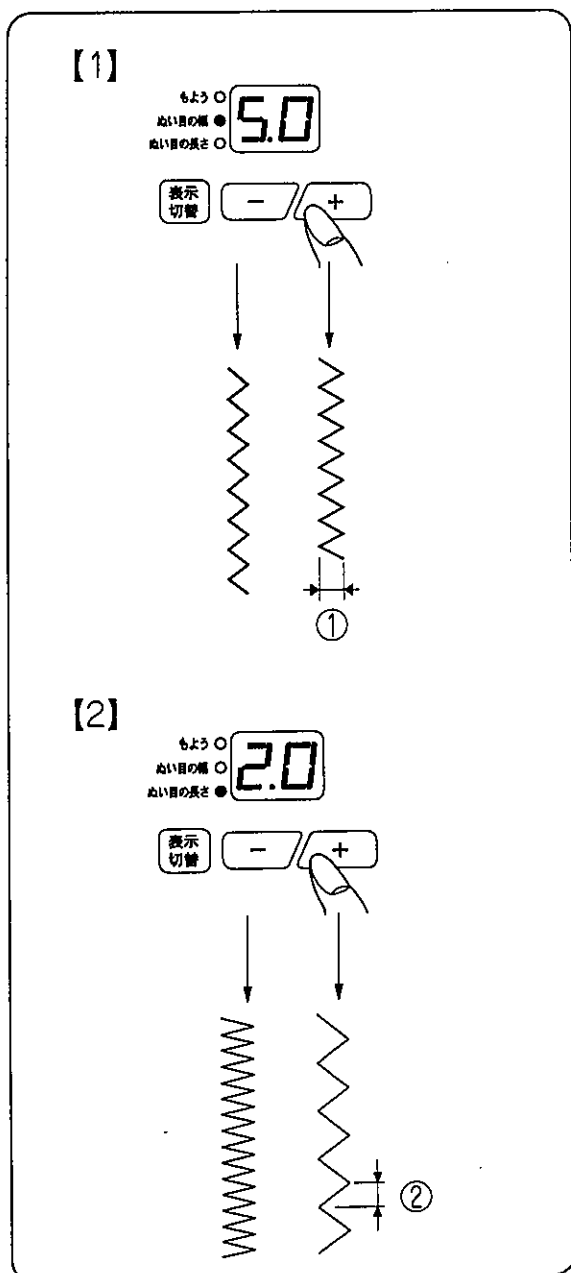
★ぬい目の幅・長さをかえるとき

【1】幅をかえるとき

「表示切替」ボタンを押して、「ぬい目の幅」を選択します。
（自動セットの数値が表示されます。）

「+」ボタンを押すと、幅が広くなります。
「-」ボタンを押すと、幅がせまくなります。

① 幅



【2】長さをかえるとき

「表示切替」ボタンを押して、「ぬい目の長さ」を選択します。
（自動セットの数値が表示されます。）

「+」ボタンを押すと、ぬい目が長くなります。
「-」ボタンを押すと、ぬい目が短くなります。

② 長さ

●裁ち目かがり

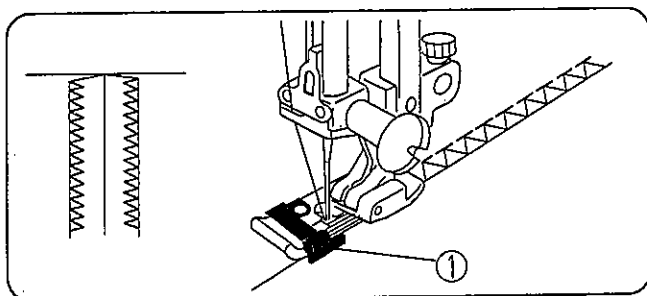
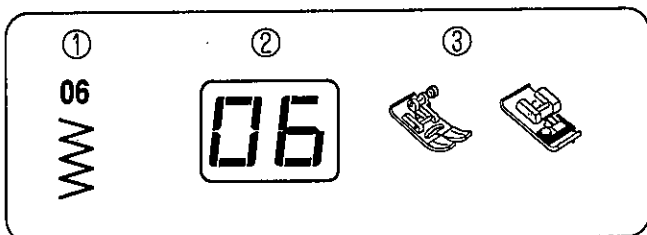


裁ち目かがり押さえを使用するときは、はずみ車を手で反時計方向にまわして、針が押さえに当たらないことを確認してください。

★ジグザグぬい裁ち目かがり

〈ミシンのセット〉

- ①模様
- ②表示窓
- ③押さえA: 基本押さえ、または
C: 裁ち目かがり押さえ



※裁ち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は、5.0～7.0でぬいます。

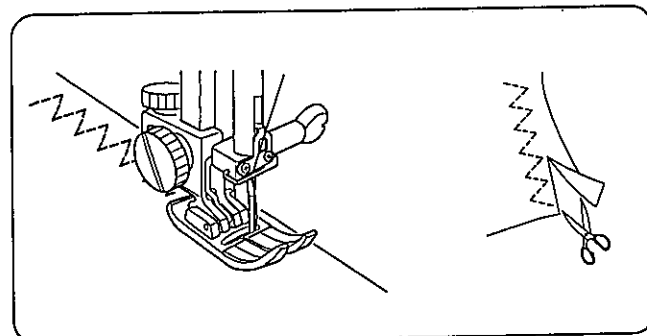
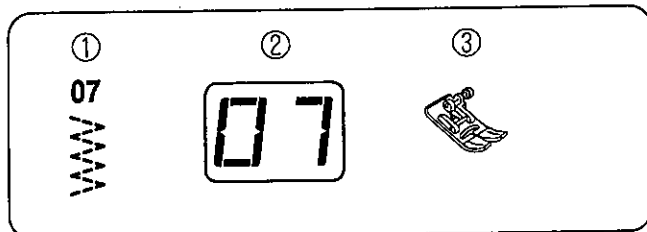
布端を裁ち目かがり押えのガイドに当ててぬいます。布端のほつれ止めとして広く利用します。

①ガイド

★トリコットぬい裁ち目かがり

〈ミシンのセット〉

- ①模様
- ②表示窓
- ③押さえA: 基本押さえ



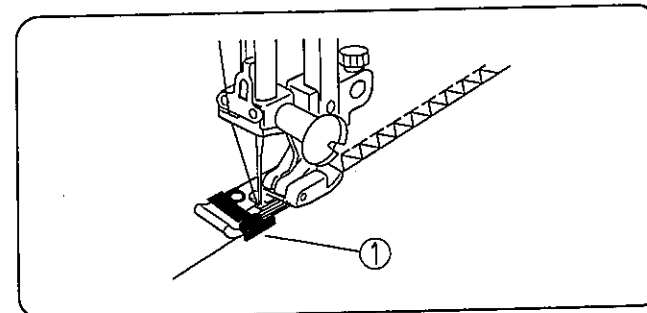
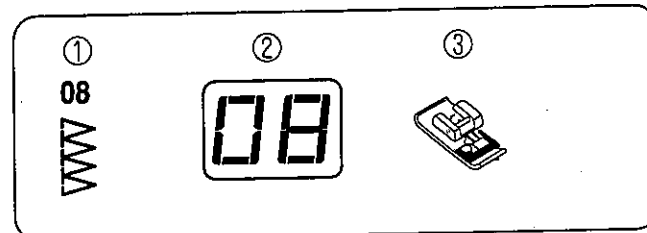
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。

ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

★裁ち目かがり

〈ミシンのセット〉

- ①模様
- ②表示窓
- ③押さえC: 裁ち目かがり押さえ



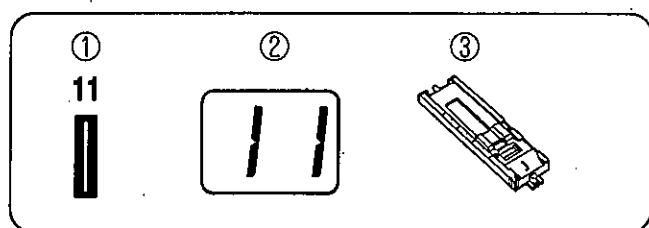
地ぬいをかねたかがりぬいで、また、裁ち目のほつれ止めとしても使えます。

布端をガイドにあててぬいます。

※ぬい目の幅は、5.0～7.0でぬいます。

①ガイド

●ボタンホール

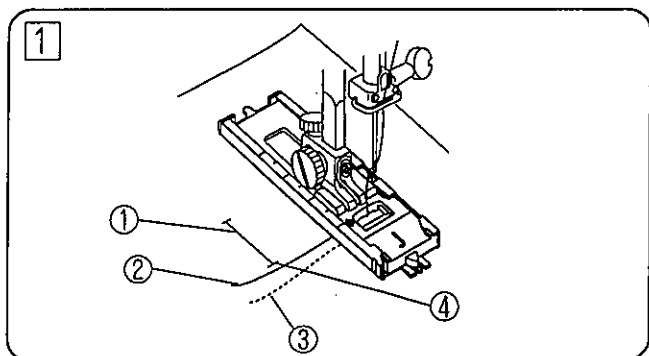


〈ミシンのセット〉

- ① 模様
- ② 表示窓
- ③ 押さえ J: ボタンホール押さえ

※ぬうものと同じ布で試しぬいをして、セットを確認しましょう。

※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。



- ① 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
- 布を入れ、ぬい始めの位置に針をさして、押さえ上げをさげます。

- ① マーク ② 上糸
- ③ 下糸 ④ ぬい始めの位置

- ② スタート・ストップボタンを押し、ミシンをスタートしてぬいます。

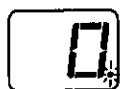
②

〔ぬっていく順序〕

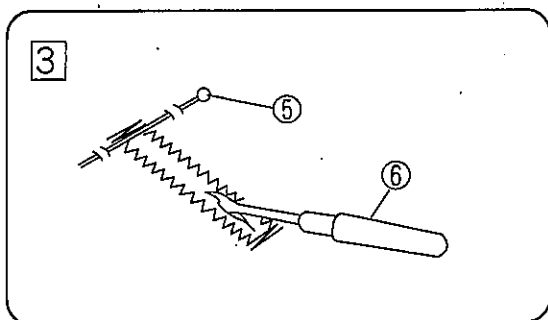
- 第1ステップ 表示窓 ----- 左側のボタンホールを必要な長さまでぬったらミシンを止めます。
- ↓ ----- 返しぬいボタンを押します。
- 第2、3ステップ ----- ミシンをスタートしてかんぬきと右側のボタンホールをぬい、ぬい始めの位置にもどったら、ミシンを止めます。
- ↓ ----- 返しぬいボタンを押します。
- 第4ステップ ----- ミシンをスタートしてかんぬきと止めぬいをぬい、自動的に止まります。
- ぬい終了 ----- ※ぬいが終了すると、ピリオドが点滅しますので押さえ上げをあげます。

【同じ長さで2個目のボタンホールをぬう場合】

- ※ミシンは、1度ぬったボタンホールの大きさを記憶しています。
- ※2個目からは、同じ大きさのボタンホールが自動的にできます。
- 返しぬいボタンを押す必要はありません。
- 2個目のぬい中は、左記表示となります。



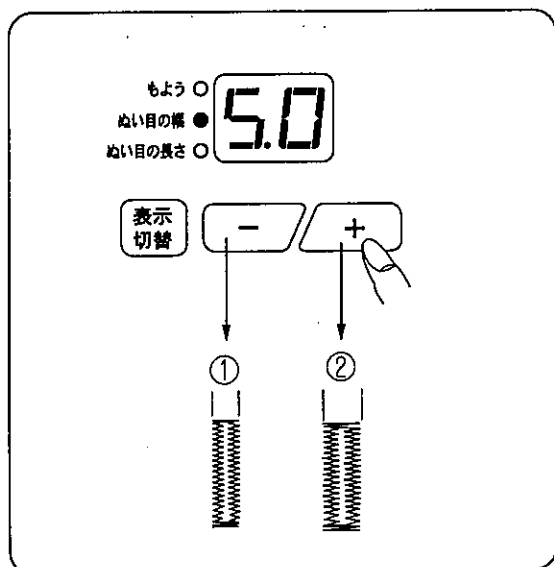
※ボタンホールをやり直したい場合には、ダイレクト選択ボタンで模様 を選びます。



- ③ かんぬきの内側にまち針をわたして、目ほどきでか
がった糸を切らないように切りひらきます。

⑤ まち針
⑥ 目ほどき

★ぬい目の幅をかえるとき



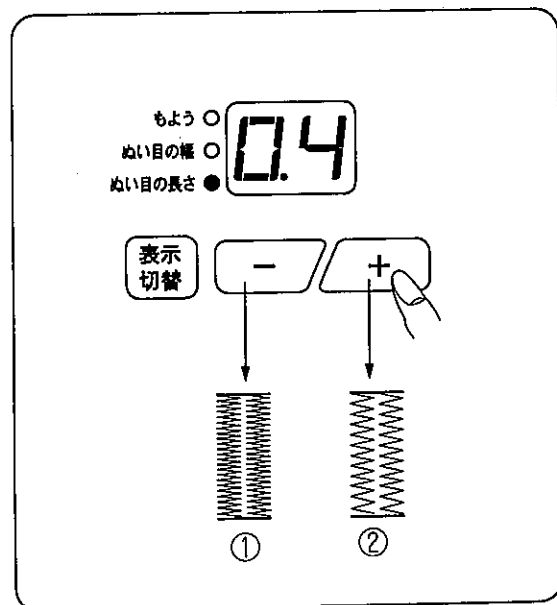
「表示切替」ボタンで「ぬい目の幅」を選択します。
自動セットされている数値5.0が表示されます。

ぬい目の幅をかえるには、「十」、または、「一」ボ
タンを押して2.5～7.0の範囲でかえてください。

※変更した数値は、電源を切るまで記憶しています。

① 幅「2.5」(最小)
② 幅「7.0」(最大)

★ぬい目の長さをかえるとき



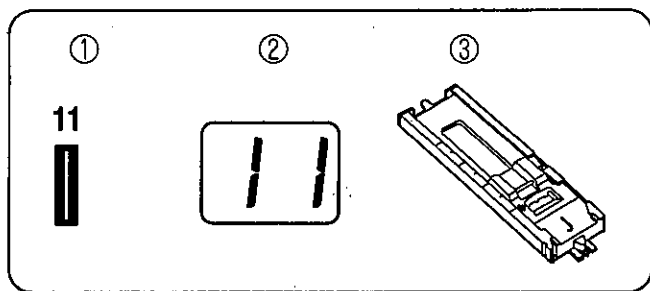
「表示切替」ボタンで「ぬい目の長さ」を選択します。
自動セットされている数値0.4が表示されます。

ぬい目の長さをかえるには、「十」、または、「一」ボ
タンを押して0.2～0.8の範囲でかえてください。

※変更した数値は、電源を切るまで記憶しています。

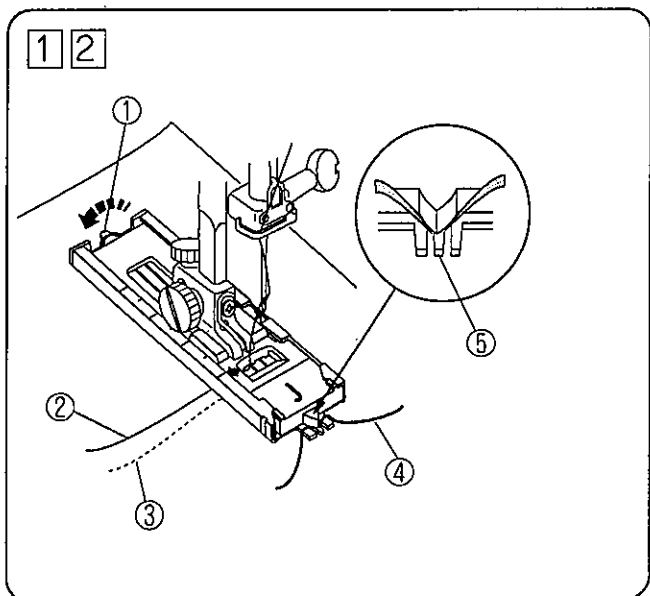
① 細かいぬい目
② あらいぬい目

●芯入りボタンホール



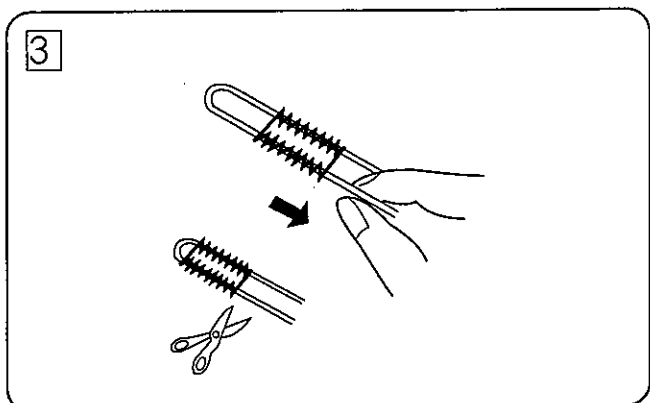
〈ミシンのセット〉

- ①模様
- ②表示窓
- ③押さえ J: ボタンホール押さえ



- ① つのにかけた芯糸を、押さえの下に通して、前側の切り込みにはさみます。
- ② ぬい始めの位置に針をさして、押さえ上げをさげ、ボタンホール手順と同じようにぬいます。

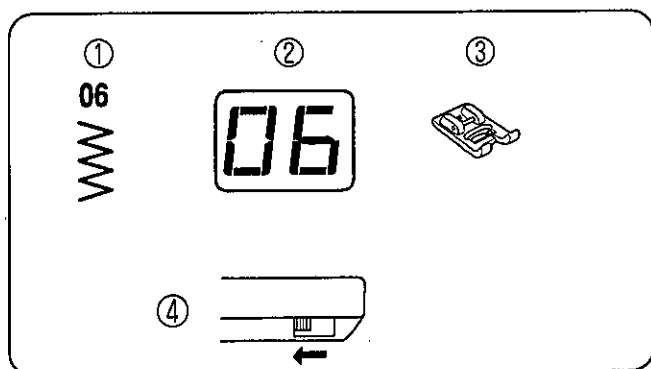
- ① つの
- ② 上糸
- ③ 下糸
- ④ 芯糸
- ⑤ 三つ又



- ③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

※ボタン穴のあけ方は、21 ページをごらんください。

●ボタン付け

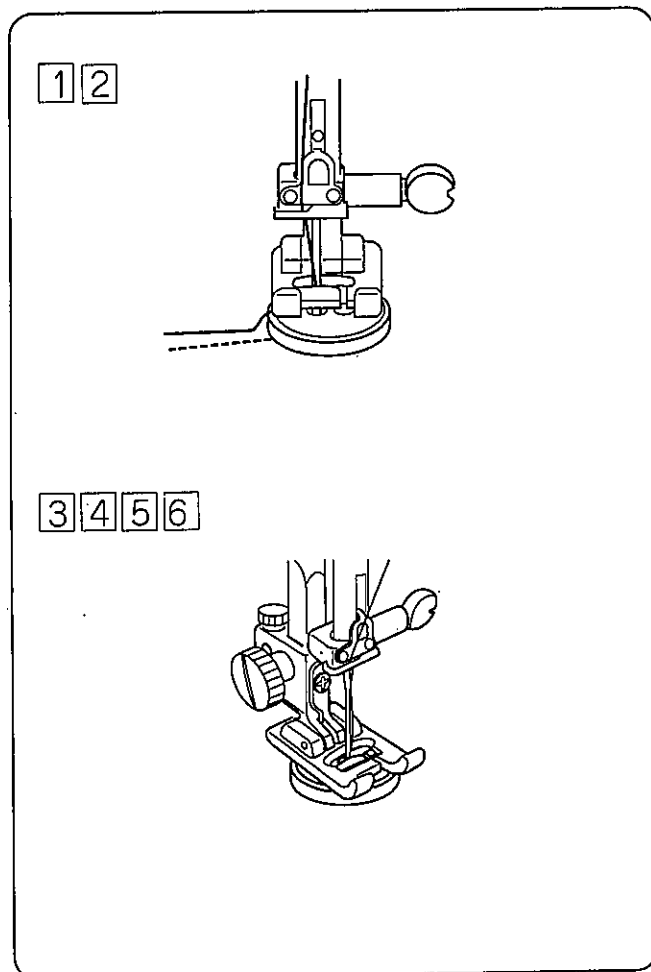


《ミシンのセット》

- ① 模様
- ② 表示窓
- ③ 押さえF: サテン押さえ
- ④ ドロップつまみ

【準備】

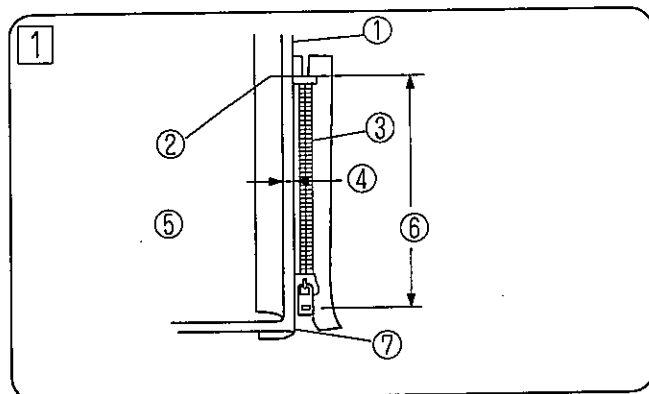
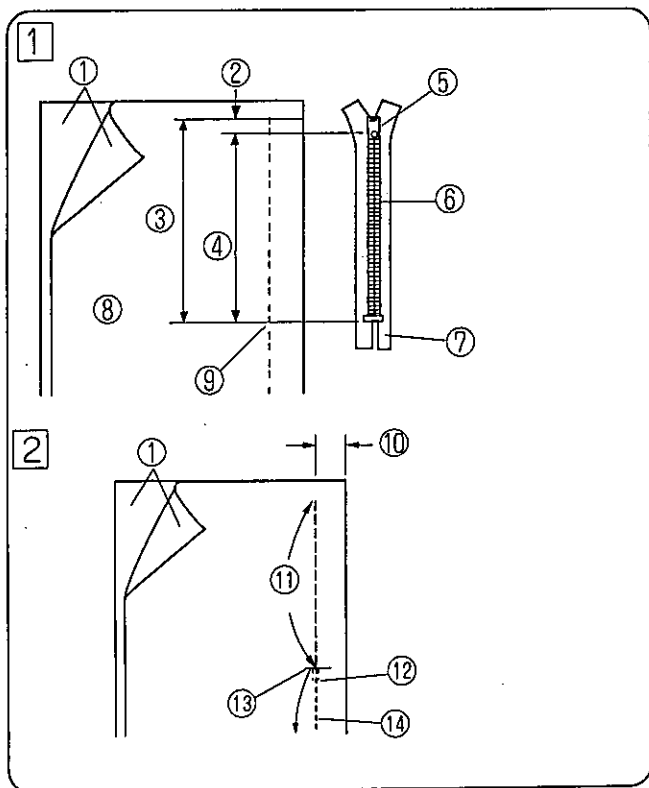
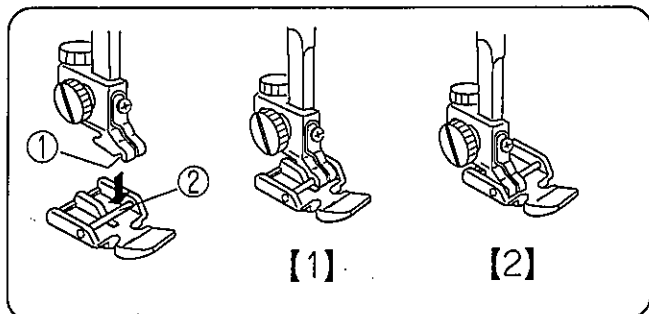
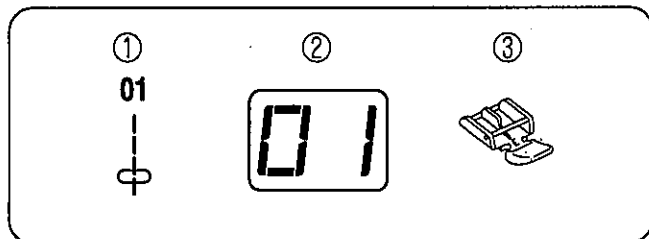
- (1) 送り歯をさげます。
- (2) ぬい目の幅をボタン穴の間かくに合わせて、調節します。



【ぬい】

- ① はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。
- ② ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押さえ上げをさげます。
※ ボタンが押さえで固定されていることを確認します。不安定だと、ボタンがずれて針折れる危険があります。
- ③ はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。
- ④ スピードコントロールつまみを「ゆっくり」にセットします。
- ⑤ 10針くらいぬったらミシンを止めます。
※ ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。
- ⑥ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を20cmくらい残して切ります。ぬい終わりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。
※ ぬい終わったらドロップつまみを送り歯をあげる位置にもどし、手ではずみ車を反時計方向にまわして、送り歯があがることを確認します。

●ファスナー付け



⚠ ファスナー押さえを使用するときは、必ず、模様 ↓ 直線（針落ち中）を使用し、はずみ車を手で反時計方向にまわして、針が押さえに当たらないことを確認してください。

〈ミシンのセット〉

- ① 模様
- ② 表示窓
- ③ 押さえE: ファスナー押さえ

【ファスナー押さえの付け方】

左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。

右側をぬうときは、左側にセットします。

- ① 押さえホルダーのみぞ
- ② ピン

【1】 左側をぬうとき

【2】 右側をぬうとき

【準備】

- ① ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法はファスナー寸法に1cmプラスした寸法です。

- ① 布表 ② 1 cm
- ③ あき寸法 ④ ファスナー寸法
- ⑤ スライダー ⑥ むし
- ⑦ 台布 ⑧ 布裏
- ⑨ あき止まり

- ② しつけと地ぬいをします。
布を中表に合わせて、あき止まりまでA:基本押さえで地ぬいをします。
あき部分は、ぬい目のあかさ4.5でしつけぬいをします。

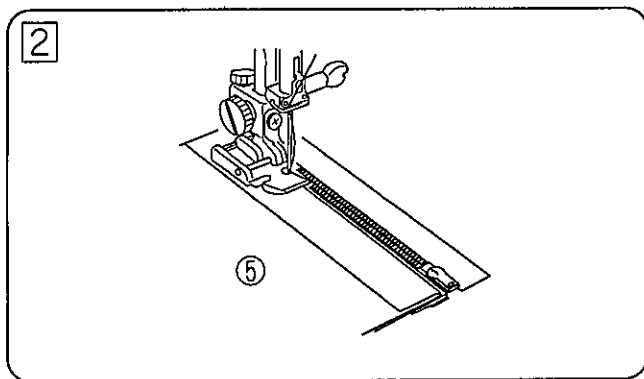
※ しつけは、ほどこきやすいように糸調子を「1」くらいにしてぬいます。

- ⑩ 2 cm ⑪ あき寸法（しつけ）
- ⑫ 返しぬい ⑬ あき止まり
- ⑭ 地ぬい

【ぬい】

- ① ぬいしろをわり、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。
ファスナーはとじておきます。

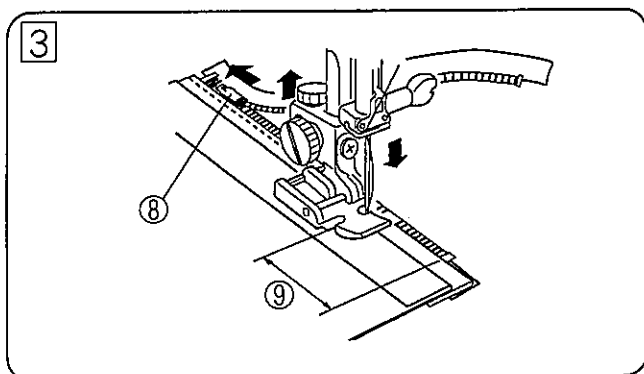
- ① 下の布 ② あき止まり
- ③ むし ④ 0.3 cm
- ⑤ 上の布（裏） ⑥ あき寸法
- ⑦ 折り山



- ② 押さえホルダーをファスナー押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端を当てて、あき止まりからぬいます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

⑤上の布（裏）



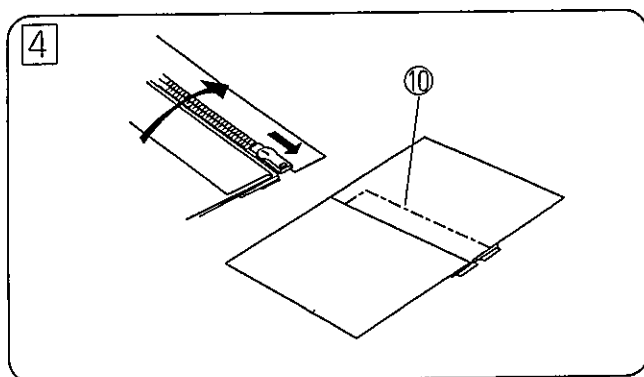
- ③ ファスナーの端から5cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。

押さえ上げをあげてスライダーを向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

※ ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

⑧スライダー

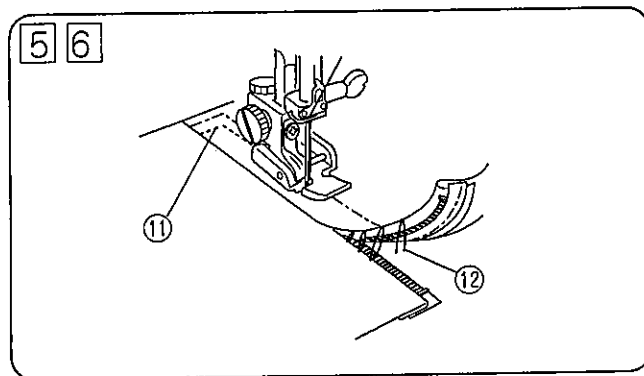
⑨5cm



- ④ ファスナーをとじ、スライダーを上にも倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。

かぶせた布と台布をしつけで止めます。

⑩しつけ



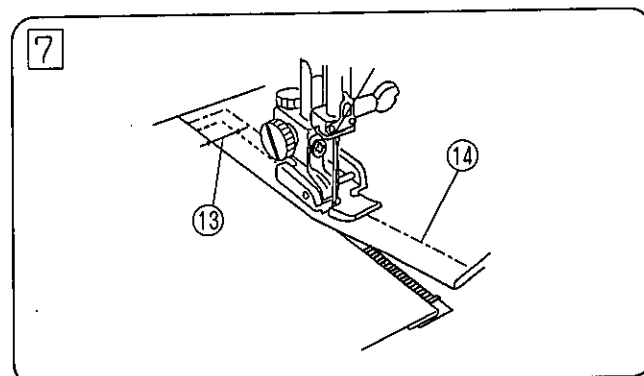
- ⑤ 押さえホルダーをファスナー押さえの左側にセットします。

上の布のあき止まりを返しぬいし、むしのきわに押さえの端を当ててぬいます。

⑪返しぬい

- ⑥ ファスナーの上側を5cmくらい残したところでとめ、針をさげ押さえ上げをあげて、【準備】の手順②でぬったしつけ糸をほどきます。

⑫しつけ

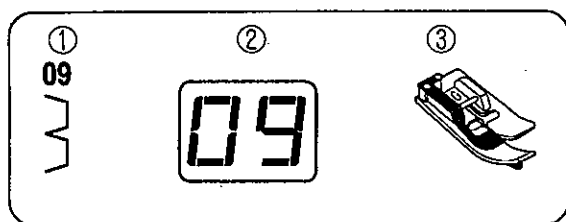


- ⑦ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順④でぬったしつけ糸をほどきます。

⑬ 1.0cm 程度

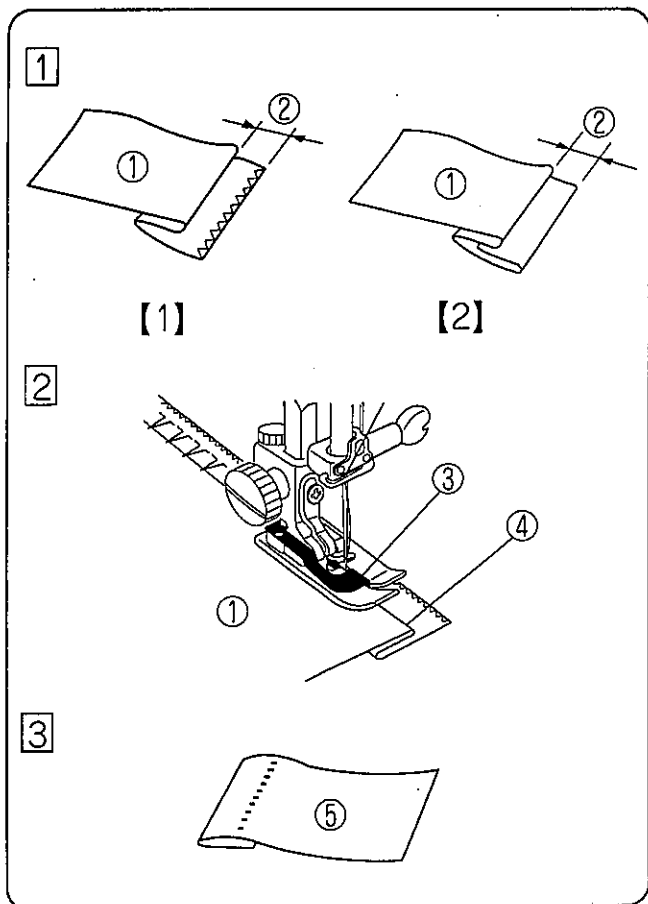
⑭しつけ

●くけぬい（まつりぬい）



〈ミシンのセット〉

- ①模様
- ②表示窓
- ③押さえ G : くけぬい押さえ



- ① 布は折るときに裏を表にして下に折り込み、布端を0.4～0.7 cmほどはみ出させます。

- ①裏
- ②0.4～0.7 cm
- 【1】 厚い布の場合
- 【2】 うすい布、普通の布の場合

- ② ガイドに折り山を合わせ、針が折り山からはずれないようにぬい目の幅「+」、「-」で針落ち位置を調節してぬいます。

- ③ガイド
- ④折り山

- ③ ぬい終わったら布をひろげます。

- ⑤表

※左側における針が必要以上にかかりすぎると、表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がらないのでご注意ください。

★針落ちをかえるとき

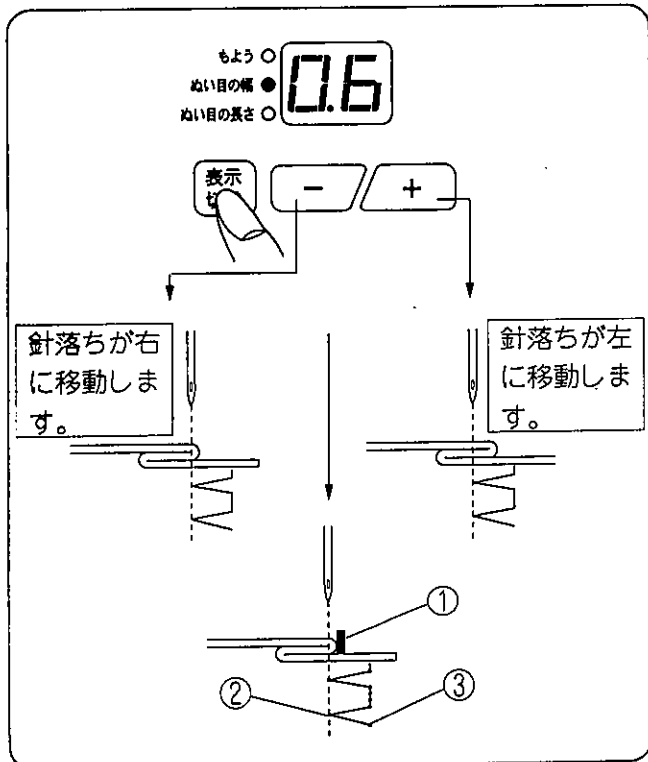
「表示切替」ボタンを押して、「ぬい目の幅」に切りかえます。最初は自動セットされている数値0.6が表示されます。

※表示0.6はガイドから針落ちまでの距離が0.6 cmであることを示します。

※模様#09は、ぬい目の幅は変化せずガイドから針落ちまでの距離がわかります。

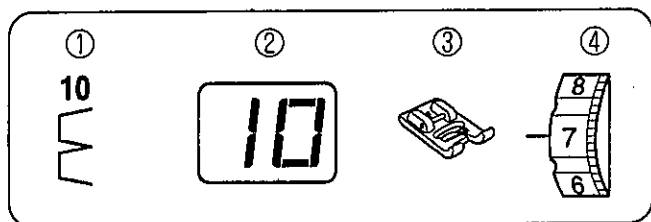
針が折り山にかからない場合「+」ボタンを押して針落ちを左に移動させます。

針が折り山にかかりすぎる場合「-」ボタンを押して針落ちを右に移動させます。



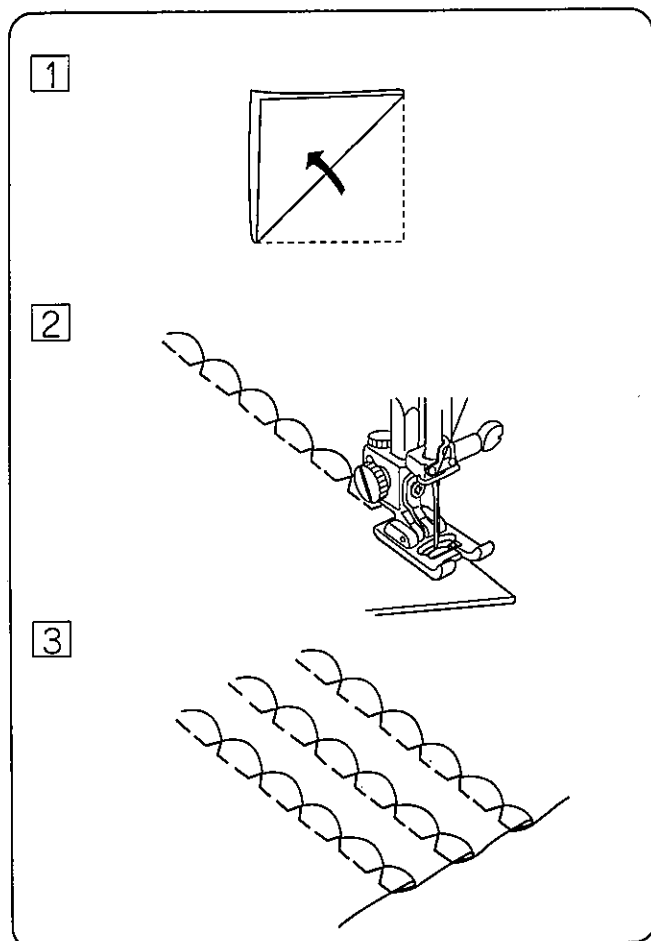
- ①ガイド
- ②針が左にきたとき
- ③針が右にきたとき

●シェルトック



《ミシンのセット》

- ①模様
- ②表示窓
- ③押さえF : サテン押さえ
- ④糸調子ダイヤル 6 ~ 8



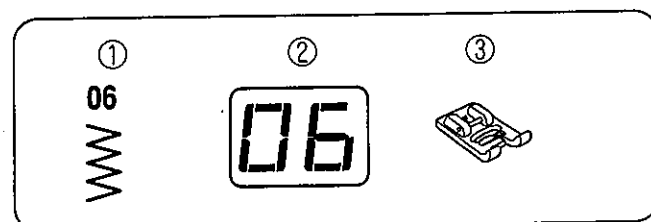
1 布をバイヤスに二つ折りにします。

2 針が右にきたとき布の折り山のきわにおりるようにしてぬいます。

3 布を開き、アイロンで山を片側に倒します。

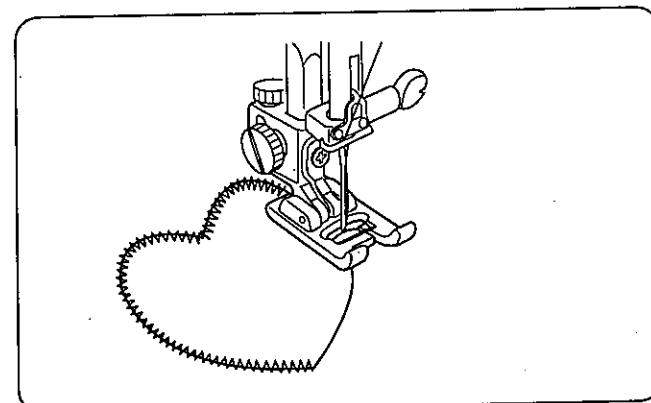
※糸調子は試しぬいをしてシェルトックの山がきれいになるように調節します。

●アップリケ



《ミシンのセット》

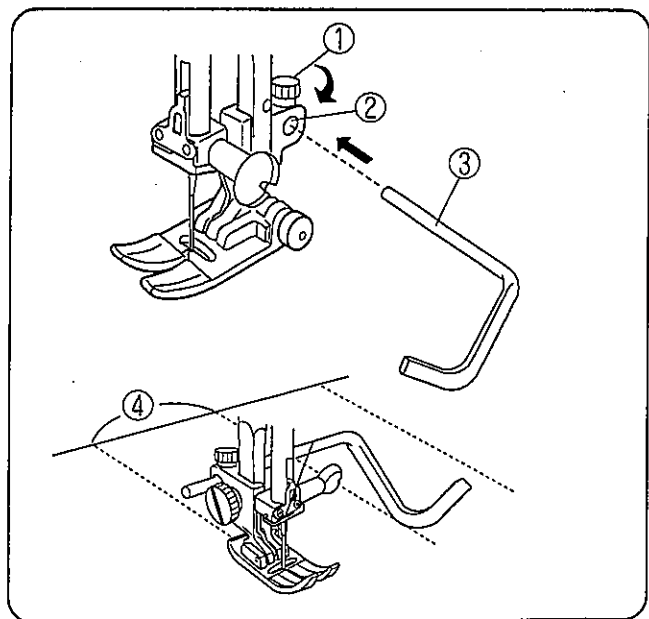
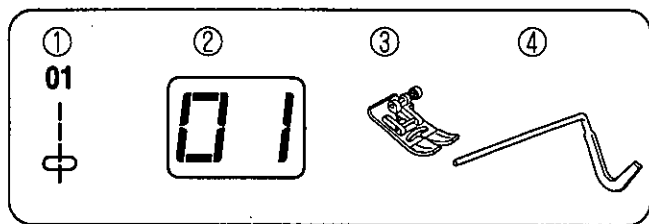
- ①模様
- ②表示窓
- ③押さえF : サテン押さえ



アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。
針がアップリケ布の外側にくるようにしてぬいます。

※急角度のところで向きをかえるときはミシンを止め、
針をアップリケ布の外側にさしたままかえると、
きれいに仕上がります。

●キルティング



《ミシンのセット》

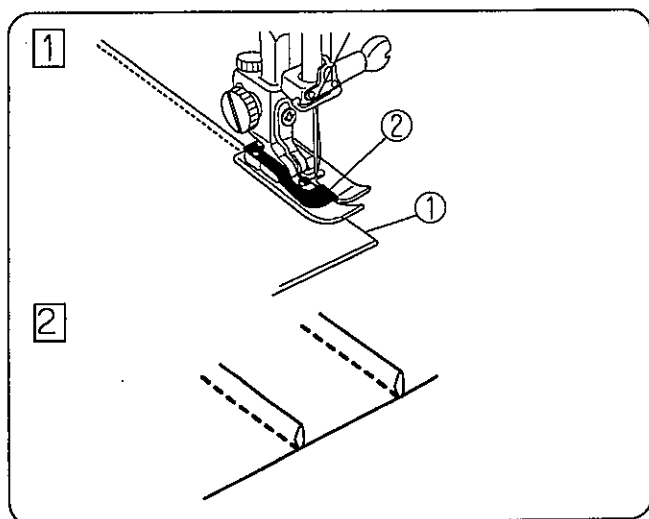
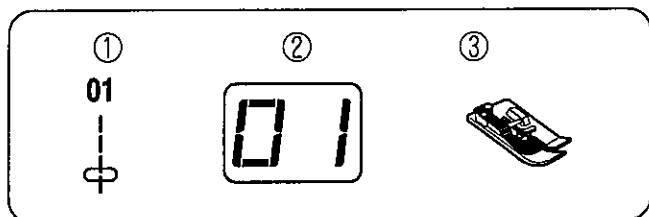
- ①模様
- ②表示窓
- ③押さえA: 基本押さえ
- ④キルター

キルター止めねじをゆるめて、キルターを取り付け穴に入れ、ぬい目の間かくに合わせて止めねじをしめます。

- ①キルター止めねじ
- ②キルター取り付け穴
- ③キルター
- ④ぬい目の間かく

※キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

●ピンタック



《ミシンのセット》

- ①模様
- ②表示窓
- ③押さえG: くけぬい押さえ

※ぬい目の幅を「0.0」にセットします。

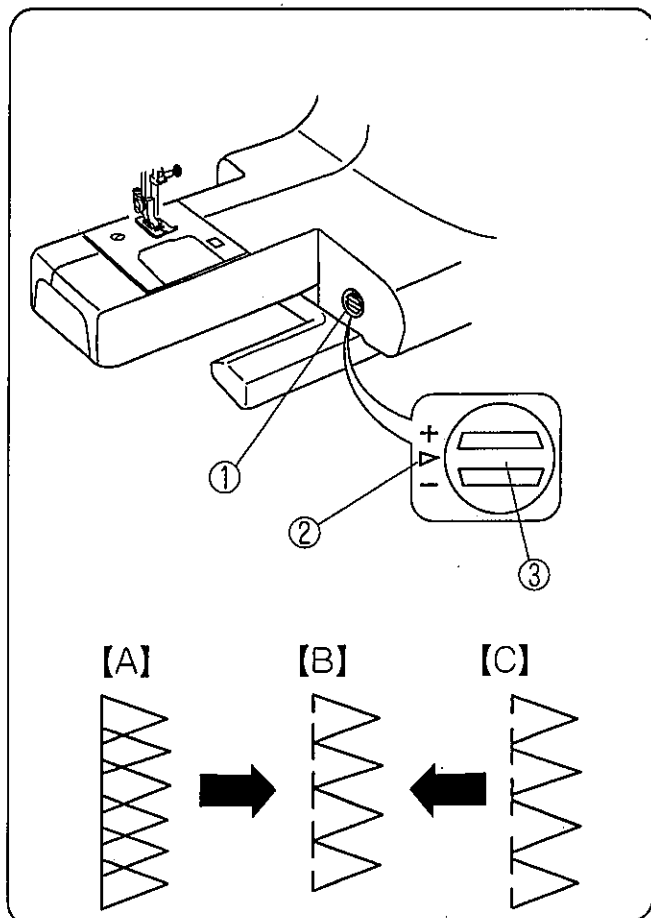


- ① 布の折り山をガイドに合わせてぬいます。

- ①折り山
- ②ガイド

- ② ぬい終わったら片返しにして、アイロンをかけ整えます。

●スーパー模様の形の整え方



※スーパー模様は、# 04、08 です。

布の種類、厚さ、ぬいの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで調節してください。

※標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しくぬえる目安の位置です。

- ①送り調節ねじ
- ②指示マーク
- ③指示線

例【模様 ⁰⁸ のとき】

【A】

模様がつまっているとき 送り調節ねじを「+」の方向にまわす。

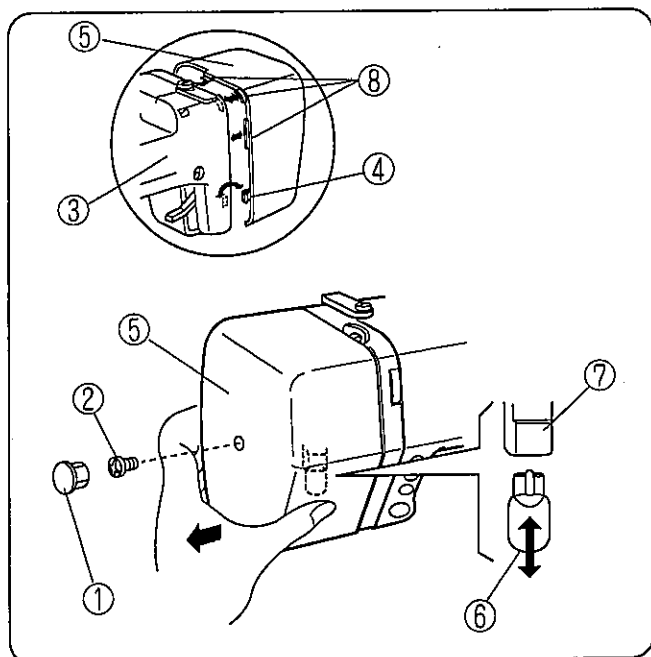
【B】(形が整う)

【C】

模様が伸びているとき 送り調節ねじを「-」の方向にまわす。

【B】(形が整う)

●ランプの取りかえ方



※ランプを取りかえるときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

※ランプは冷えてから外してください。

《外し方》

- 1 キャップと締めねじを外します。
- 2 背面カバーよりフックを外して面板を外します。
- 3 ランプをそっと引き抜きます。

- ①キャップ ②締めねじ ③背面カバー
- ④フック ⑤面板 ⑥ランプ
- ⑦ランプソケット ⑧リブ

《付け方》

- 1 ランプをソケットの穴に合わせながら、差し込みます。
- 2 リブとフックを背面カバーに入れ、面板をしめねじで取り付け、キャップを取り付けます。

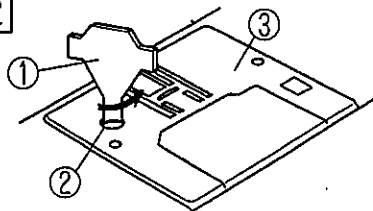
※ランプの購入は、販売店へお問い合わせください。

ランプ品番は、000026002 (12V、5W)です。

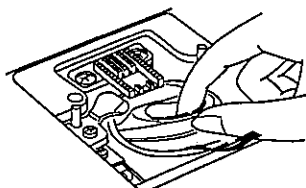
定格の異なるランプは、取り付けないでください。

●ミシンの手入れ

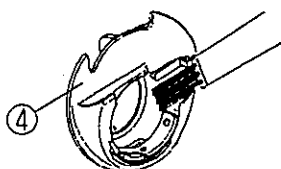
1 2



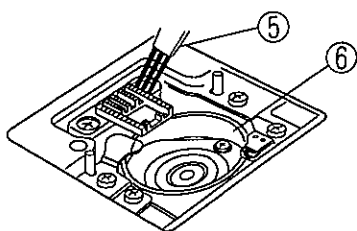
3



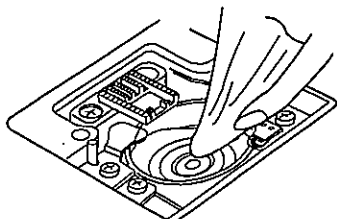
4



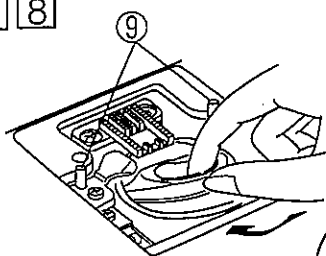
5



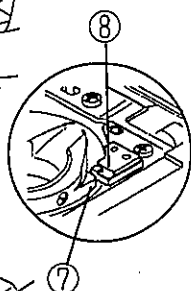
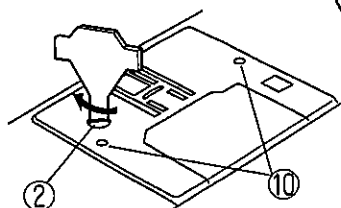
6



7 8



9 10



※手入れのときには、上下停針ボタンを押して針をあげてから、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

※手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。

★かまの分解

- 1 針と押さえを外します。
- 2 しめねじを外し、針板を外します。
- 3 ボビンを取り出し、内がまの手前を上へ引きながら外します。
- 4 内がまを、ミシンブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

①ねじまわし

②しめねじ

③針板

④内がま

★かまと送り歯の掃除

- 5 送り歯のごみを、ミシンブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
- 6 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

⑤ミシンブラシ

⑥外がま

※ ミシンブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸い取ってください。

★かまの組み付け

- 7 内がまを差し込みます。
- 8 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
- 9 ボビンを入れ、2箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて、針板を取り付けます。
- 10 しめねじをしめます。

⑦内がまの凸部

⑧回転止め

⑨針板ガイドピン

⑩針板ガイドの穴

※ 手入れが終わったら、忘れずに針と押さえを付けてください。

●こんな表示が出た場合

警告音とともに下の表の表示があった場合、1.5 秒間表示されます。下の表の対処方法にしたがってください。

表 示	対 処 方 法
	1. フットコントローラープラグを接続した状態で、スタート・ストップボタンを押した場合に表示されます。 スタート・ストップボタンを使用する場合には、フットコントローラープラグの接続を外してください。 2. ぬい中にフットコントローラープラグを差し込んだり、外したりした場合にも表示され、ミシンモータが停止します。 フットコントローラープラグの抜き差しは、電源を切ってから行ってください。
	安全装置の作動により、ミシンモータが15 秒間緊急停止しているときにボタンを押すと表示されます。しばらくおまちください。 糸がらみ等があった場合には、電源を切り、不要な糸を取り除いてください。
	糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに表示されます。 ※糸巻き軸をもとの位置にもどすまで、表示されます。
 	電源投入時に表示された場合、ミシンが故障しています。 お買上げ店へご連絡ください。

★ブザー音の種類

ブザー音	内 容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピピピー	ボタンホールぬい終了などの終了音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直 し 方
上糸が切れる。	1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。または、糸調子皿から上糸が外れている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針がまがっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. ぬい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	12 ページ参照 8 ページ参照 9 ページ参照 9 ページ参照 14 ページ参照 14 ページ参照 9 ページ参照
下糸が切れる。	1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4. 下糸がゆるく巻かれている。	11 ページ参照 30 ページ参照 ボビンを交換する。 巻く速度をはやくする。
針がおれる。	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。 5. 模様にあった、押さえを使用していない。	9 ページ参照 9 ページ参照 14 ページ参照 9 ページ参照 押さえを交換する。
ぬい目がとぶ。	1. 針の付け方がまちがっているか、針がまがっている。 2. 布に対して針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャンメブル針（市販SP針）を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。	9 ページ参照 9 ページ参照 9 ページ参照 12 ページ参照 針を交換する。
ぬい目がしわになる。	1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布に対して針が太すぎる 4. 布に対してぬい目があらずすぎる。 *特にうすい布をぬうときは、下側に紙をあててぬってください。	8 ページ参照 11、12 ページ参照 9 ページ参照 ぬい目を細かくする。
布送りがうまくいかない。	1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. ぬい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。	30 ページ参照 ぬい目をあらくする。 7 ページ参照
ぬい目に輪ができる。	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が細すぎる。	8 ページ参照 9 ページ参照
ボタンホールがうまくいかない。	1. 布に対してぬい目の長さが合っていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	21 ページ参照 20 ページ参照
ミシンがまわらない。	1. コンセントに、プラグがきちんと差し込まれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元にもどっていない。（糸巻状態になっている）	4 ページ参照 30 ページ参照 10 ページ参照
音が高い。	1. かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。	30 ページ参照 30 ページ参照

※静かな部屋で使うと、「ウーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モータから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※長時間使うと、表示窓と選択ボタンの部分の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より一年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスを行います。
ただし、次のような場合は修理できないことがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は
下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

〒104-8311 東京都中央区京橋3-1-1

お客様相談室

TEL. 03 (3277) 2200

仕 様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	50W / ランプ 12V 5W
外形寸法	幅 39cmX 奥行 18cmX 高さ 28cm
重 量	8.3 kg (本体)
使 用 針	家庭用 HA X 1
ぬい 速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時 (毎分 820 針)

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承下さい。



蛇の目マシン工業株式会社

〒104-8311 東京都中央区京橋3-1-1

843-800-935

